京城日報

十八日夕刊
(朝夕刊併せて八頁)

京城太平町通一丁目
發行所　京城日報社
發行兼編輯人
印刷人　小川三之助

○段總理辭職經過

段總理辭職の經過を聞くに左の如し(北京特電)

十四日段總理は王汝賢氏等の電報に接し馮總統に謁し指令を仰ぎたるに總統は「王汝賢、范國璋の兩氏は皆輝の信任する人物なるに此の事あり願くば我爲めに策を献せよ」とあり段氏は「事爰に至る總辭職の外なし宜しく總統より新內閣を組織されたし」と答へたるに總統は「余に名案無し卿は先づ後任總理を推薦し辭職の理由を各督軍に通電し誤解を去り國內の擾亂を起さしめざる責任あり又猝かに北京を去る事勿れ」と述べ段總理は最後に「後任總理としては王士珍氏可ならん」と答へて辭去せりと

○段辭職後の時局

佛國某外交官は支那政變に就き語つて曰く段氏は信賴す可き唯一の人物なり段氏にして去らば時局は却て紛糾するやも知れず外交團は今回の事に就き何等公式の通牒を受け居らずと(北京特電)

○段總理留任

各總長辭表却下さる
＝徐世昌氏哭て忠諫す＝

十七日午前九時より總統府會議開會馮總統自ら電話口に立て段內閣の閣員を召集し段總理各總長の外徐世昌、王士珍、段芝貴、李長泰、師景雲の諸氏及び總統府國務院兩秘書等列席したるが席上徐世昌氏は且つ激し且つ哭き吾人は義兄弟に等しく何故斯れ無き爭ひを爲し國家を顧みざるやと忠諫し次で馮總統も態度一變內外多事の秋一日も內閣無きに於ては大局動搖せんとて段氏を宥め結局對南方政策を一部變更し段氏は留任する事となり政府の命に從はざる軍人は懲罰するに決し段總理各部總長の辭表は却下されたり(北京特電)

○長沙危險刻々迫る

長沙領事の陳情に曰く「十六日予は王督軍に面會し長沙を流血の巷たらしめざる事を警告したり但北軍は日本領事館前面三所の地點に砲列を敷き危險は刻々に迫りつゝあり」と(長沙特電)

○日米協定と湖北督軍

湖北督軍王占元氏は日米共同宣言を利用し西南各省長に向ひ諸公は速に內爭を中止し外部の關係に一致の行動を執るに熱中せざるべからず然らざれば支那の前途は益々危險なる可しと警告し倚ほ馮大總統其他北京朝野の重要地位にある人々に宛て時局に關する調停通電を發せり(漢口特電)

○佛內閣成立

巴里來電＝クレマンソウ氏は佛國新內閣を組織したり閣員の顏觸左の如し(路透電報)

▲內閣議長兼陸軍クレマンソウ氏▲法務ネール氏▲外務ピシコン氏▲內務パム氏▲大藏クロッツ氏▲海軍ジヨルジライグ氏▲商務クレマンタル氏▲軍需ルーシヨア氏▲殖民シモン氏

○紡績給錘可決

紡績聯合會は綿屋の暖頭もあり十一月一日より六箇月間一割の給錘を可決せり(大阪特電)

○石塚總裁南行

遊歷東北奉天に滯在中なりし石塚東拓總裁は十八日午後九時二十分京奉線にて奉天大和ホテルに投宿十九日奉安奉線にて京城へ向ふ可し(奉天特電)

○有吉領事の北行

上海總領事有吉明氏は十八日朝著釜線にて釜道ホテルに入りたるが十九日朝出發北行の筈なり(釜山特電)

◎米の群山

群山某銀行家談

所謂群山米と云ふのは全北平野と忠淸南道産米の一部を云ふのであるが今年は何れも近年稀な豐作であつて既に各地共其の收穫を終り目下乾燥並に籾摺中だから遲くも十一月下旬に入らば其の群山出廻りは盛況を呈し市況も賑ふだらうと思ふ、少し米の群山に就て卑見を述べやう

▲廻米の觀測　世上本年內地の米作が水害により第一回豫想に比し著しい減收を見たので、朝鮮の米産も昨年より可なり惡い加ふるに船腹の不足は外米の內地輸入を困難ならしむるから米價の前途はどうも高見込みである、ため農者側は賣惜しみを來し全北米の出廻りも一時にドツと來るやうな事はあるまいと云ふ觀測をしてゐる人もあるが、これは資力の有る大農協筋の事で多數の小地主並に細農者は差し向き十二月の地稅納期並に年末決濟資金の必要上籾摺を終らば賣急ぎをなすのは蓋し察知するに難くないから群山地方の米吹の大山を築いても尙ほ足らぬ狀況を呈するのはもう近い事である

▲移出米幾許　今年の群山米が幾千に達するかは興味ある問題である、木浦にも元山にも仁川にも釜山にも全北米の分割は既に行はれてゐる、又群山から鐵路直ちに內地に發送するものもないではないか之等を控除して全北米の移出能力が幾何であるか、一昨年は作もよかつたし七十五萬石を移出した、昨年は水害を受けた爲め僅に四十萬石しか出なかつた、然し本年は豐收であるため七十萬石を超ゆべしと推察するに足る理由がある、唯鐵道の運賃は群山一日一車二十二噸乃至三十噸位に制限されてゐるから如何に積出しても知れたものである、然し群山の木浦各商人の手に大に致さるゝ人が餘り活動せず釜山、仁川の外群山米の移出力は減ずるかも分らぬ、此迄は商人の腕次第である

▲運賃こ船腹　本年群山の穀類運賃は一噸二百圓である、之れを昨年の屁上りになつた時の運賃に比すれば平均約四五割の上値である、此の船運賃の騰貴と云ふ事はそれだけ朝鮮の不利である何故ならば內地と朝鮮間の運賃の差は船運賃が上れば上る程朝鮮の米價は安くなるから大きくなるのである、朝鮮米を內地に移出して收得する金額はそれだけ減ずるからである、之れも海運界今日の實況より見れば止むを得ないであらう、唯本年は南船居ケ崎等の群山廻船は昨年に比し餘程多いやうである、然し今年は群山廻船があつて定額の運賃を拂へば船腹は幾千でも提供すると云ふ風であるから之れは切めてもの幸ひとしなければならぬ

▲木浦こ群山　序でに木浦方面から群山米の買出しをやる人が餘程殖えた、一體全南は米産に於て必ずしも全北に下らぬのに何故全北の米を汽車の運賃を出してまで木浦に引くかと云ふに(一)全南の産米は全北に比し若干多いけれど人口は全北の百萬に比し全南は百七十萬を有し道の消費米は餘程多い從つて移出能力を有する米は群山より餘程少なくなる(二)全北の如く農場多からず從つて纏つた米を容易く手に入れ難い(三)昨年及び昨年に於ける木浦檢米の成績は群山の檢米に比し上位にあり從つて木浦米は右に付群山米より一圓方高い其の爲め汽車運賃を出し木浦に全北米を引くも採算して居るは出荷さめてある之れ木浦商人が全北に切込んで來る理由のやうだ

▲群山檢米勵行　群山米が木浦米より稍下なるは其の理由全北の檢米の結果にありと云ふのは全北の當局も常業者も餘程腹帶を締め檢米を嚴重にしてゐる、乃ち質に於て木浦米より劣らせないと云ふのを主眼にしてゐる、唯木浦の移出米は其の額も多くないけれど群山は大量である、故に木浦程に行かないであらう、米檢査局は特種の方法により檢査を勵行してゐるため群山米の聲價は必らず上るだらうと思はるゝ

◎露國幣制の將來

朝鮮銀行調査局長　中村光吉氏談

露國の擾亂紛糾は益々甚だしく、既に國家の中心が那邊に確立さるゝであらうか、今日の所、殆んど想像がつかない、随つて露國の前途は、洵に危殆の狀態に在るものと見ねばならぬ、此際露國は現在の幣制を維持し得べきや否やは近年經濟的關係の密接せる我國に於て、頗る注意を要することであらう、即ち此問題を掲げて、鮮銀調査局長中村光吉氏の意見を叩く、氏の談に曰く

露國幣制の將來といふことは、露國の將來といふに等しい、之を今日に於て想定することは、困難といふよりは

▲不可能こいふ方が適當かも知れない、然しながら、强て意見を立つれば、さして悲觀するに及ぶまいと思ふ、此の觀測は露國が結局現下の混亂狀態より脫かれて、立派に獨立の國家として存續し得るものとの前提の下に於て爲されるのだ、而して此點も亦吾輩は樂觀してゐる、露國の國情は支那程に複雜でない、報道されつゝある通り程度の紛糾も、國情が簡單過ぎるからだと見られぬのでもない、故に案外早く鎭靜に歸するかも分らない、或は東察加其他所領の一部を外國に賣却する樣のことは無いとは云へないが、國家の存亡に關する懸念はあるまい處で

▲露國の幣制に就ては、曾て東京財界の巨頭某男爵の如きも、不必要心配してゐるとの噂を聞いたこともある、露國が若し、國家の信用を犧牲に供して、貨幣法の改正を敢行するかも計られないといふものが、其の心配の種であつたのだ、日本では金貨の品位を法規で規定してあるのみで、萬一法規を變更して、本位貨の品位を下ぐれば、紙幣の價値も下落する譯だが、露國では、兌換券に本位貨の品位を明記してある、例へば日本では、五圓の金貨は、金が千分九百位ら九百位、銀が何位といふことを

▲法規に付明文があつても、兌換券には、何も記してない、法規を改正して五圓の金貨を二圓五十錢より價値のないものとすれば、其迄だが、露國のは、前に述べた通り、本位貨の品位を紙幣に明記してあるから、縱し貨幣法が改正されても紙幣の所持者は夫れ相當の價値ある金貨を受取るべき既得權を有つてゐるので、吾輩は貨幣法の改正といふことはあるまいと信じてゐる、斯く信じては居るものゝ、貨幣法に改正云々の無い國內法であつて見れば、其

▲改廢共に自由だ、如何なる亂暴な改正をやらぬとも限らぬ、或は全然兌換を止めて了ふかも知れぬが、外國人の所有紙幣を所有してゐる額は甚だ多い、英國人も所有してゐるものである、其等とは比較に成らぬが、日本人の所有額も少くはない、露國が財政困難を理由として亂暴なる幣制改革を行はうとすることであれば、米國を主として英國も日本も、整理資金を貸與するなど、何等かの救濟策を講じはすまいか、從來毎年六億留の

▲輸出超過を見た國であるから、財政の救濟は太して困難ではあるまい、此見地からすれば幣制改革の必要も無く、無論露國紙幣は現在非常に下落しては居るが其將來に對して所有者の憂慮は無用であらうと、吾輩は私かに信じてゐる。

◎警察署長會議

京畿道警務部管內警察署長會議は十八日も前日同樣警務部長統裁の下に午前八時半より開會諸訓示協議術科等ありたり

○ケ氏宣言及提議

過激派一部條件に不滿、休戰を拒絶す

ケレンスキー氏は十四日露都に於て(一)、革命に對して忠實なる事(二)、政見を代行議會及び革命救濟委員會に讓渡す可き事の宣言を發し氏の態度を明かにせるが尙過激派に對し左記條件にて休戰を提議せり

(一)赤色近衞軍(過激派擁護軍)の武裝を解く事、(二)露都衞戍兵を市の管理に移す事、(三)軍事行動を停止する事、(四)ケレンスキー氏等の入都に際し軍隊は一發の發砲をも爲さゞる事、(五)過激派の捕縛を爲さゞる事

右休戰提議の應諾を得ば左の政綱に依り過激派を除外したる社會黨內閣組織の協議を開催す可き旨を合せて提議せり

(一)至急講和の締結(二)土地處分は土地委員會に委任する事(三)憲法議會を召集する事

右提議に對し過激派は他の總ての條件には異議無きも過激派を閣員より除外したるは承諾の限りに非ずとし三日間の休戰をも拒絶したれば露都は忽ち戰場と化し兵燹を起すに至れり(路透電報)

◎民政施行說明

本鄕軍司令官支那各界招待席上に於て我立場を明にす

我青島占領地に於る民政の施行を以て條約及び公法に違反して顧みざるものとなせる支那一部の官民は中央部より我林公使に對する抗議を初めとし山東省議會亦中央及び各省に通電を發して民政反對の聲を揚げ其勢ひ漸く熾ならんとする

▲此時此際我　本鄕司令官が秋山民政長官其他と共に濟南に來り親しく各種階級の人士と交驩應酬して其の誤解なることを語り、十一日夜の如きは新舞臺の支那各界招待に係る歡迎會にて張第五師長の歡迎辭に對する本鄕司令官の答辭は民政に關する支那側の疑念を排除するの力著しく鮮少ならざるものありき張師長は各界を代表して歡迎の辭を述べたる後ち歐洲戰の結果に及び將來黃白二大人種の對立に到底免る可らざる必至の數にして此理は各人の冥々裡に會得せざるものなし此の際に白人東漸の勢を阻止し國家の存立を維持するには黃人種の中堅たる中日兩國

▲相互に提携して對抗せざる可らず今夕此所に於て本鄕司令官の來濟を機とし斯く多數の中日官民が一同に會するを得たるは中日親善の表象として深く慶賀に堪へざる次第なりと結べり次で本鄕軍司令官は招待歡迎の好意を謝し一同に代りて謝したる後ち日支の親善は自明の理、必至の數なる事は張師長の言の如し從て之を阻礙すべき事物は成る可く之を排除改善せざる可らず我軍が獨を一掃して靑島及び山東鐵道を占領したる以來既に三星霜

▲此間軍政を布き來れりと雖も由來軍人は行政の專門家に非ざるを以て時に國交の圓滑を阻礙し時に或は日支兩國人民に缺くる事項處理の上に於て適當を缺ぐの虞なきにあらず此の故に我政府が今回占領地に民政を施行するに至れるは專門家たる文官を以て專門家ならざる軍人に代へ以て兩國の必須條件たる提携親近の度を密ならしむると共に國交の圓滑を計り傍ら兩國人民の保護をして益周到ならしめんとの意に外ならずと述べ最後に今夕は幸ひ民政長官秋山博士も臨席の事故各位腹藏なく

▲所懐を披瀝して談論せられん事を望むと述べたり本鄕司令官が各界代表者の集合せる此席に於て此言を爲したる事は卽ち我立場を明かにし一方根據ありて誠意ある支那側の申出に對しては充分之を傾聽するの雅量を示せる者として支那側も漸く諒解したりと(十二日濟南)

◎府三郡品評會

釜山、東萊、密陽、梁山の一府三郡聯合物產品評會は來る廿一日より東萊城內に於て開催に付之れが設備及び諸準備は大略整ひ居れるが開會當日は名譽會長若松釜山府尹其他役員參集し午前十時を以て佐々木慶南道長官臨場の上開會式を行ひ廿三日に褒賞授與式を爲し廿五日閉會の筈なるが褒賞授與式の當日たる二十三日には官民五百餘名を招待して園遊會を催し猶種々餘興申込あると云へば同日の東萊邑內は非常の賑を呈すべしと(釜山)

準備の爲め朝鮮ホテル支配人猪原貞雄氏は局員及びホテルボーイを随へ十七日朝南大門發同夜出帆の鎮城丸にて淸津に向へり

◎九月中民刑事件數

本年九月中朝鮮總督府裁判所及び檢事局に於て取扱ひたる事件數は▲民事事件新受五萬九千六百六十七件舊受三千六百五十件合計六萬三千三百十七件にして之を前月に比すれば新受四百九十二件の增加舊受二千五百五十七件の增加▲刑事事件は新受三千三百三十八件…▲檢事局檢査事件は新受百八十四件、舊受百三十件、合計六千…前月に比すれば…九件を增加せり

人事消息

▲宮崎致本郞氏(江原道第二部長)　十八日入京
▲愛傳氏(東京辯護士)　十八日入京
▲岡本遞信局技師　十八日午前內地へ
▲勅使河原京城地方法院長　十八日午後歸任
▲ウヰルソン氏(米國總領事)　京城朝鮮ホテルへ
▲君塚全州慈惠醫院長　十八日午前歸京
▲吉野勇次郞氏(朝郵專務)　十九日

◎人見局長出發

朝鮮鐵道局長人見次郞氏は豫報の如く十七日午後九時四十分南大門驛發列車にて東海道線並に支那鐵道視察の途に上れり

◎大塚參事官出張

總督府參事官大塚常三郞氏は十七日午後九時四十分南大門發列車にて南海道並に平安南北道へ出張せり

◎久水外事課長下釜

久水外事課長は十八日午前八時四十分發列車にて釜山へ出張せり

◎川上理事歸京

慶尙忠淸各道視察中なりし川上東拓理事米山參事吉田技師の一行は十八日早朝淸州を自動車にて出發午後三時歸京せり

◎龍岩浦出張所長

新に遞信技師に任せられし宇部野朝二郞氏は龍岩浦海事出張所長を命ぜられたり

◎猪原氏先發

十一月二十五日會寧に擧行さるべき淸會線全通式

彼れ此れ

○巴里の聯合國會議開催さるべき、聯合國間は、大に緊張し來れり。軍事會議は、英國首相は、斷乎たる決心を以て、戰爭遂行上の任務を說き、戰時の施行、指導を行はん事を聲明す。羅馬尼の山河、羅馬尼の天地、亡魂宇宙に迷うて、鬼哭啾々、今又伊太利の敗衂を見る。英國首相の憤慨、亦一理なきに非ず。蓋し之れ頂門の一針。

○安全第一の本家米國にては、參戰前迄は、到る處其の語の貼紙を見しが、愈々參戰後の今日に至れば、貼紙の文句は一變して『米國第一、安全第二』と書きありと。流石の米國も、安全第一主義にては、最早間に合はずと見ゆ。

○我邦人口の增殖より、打算する時は、年々米收五十萬石の、增加を必要とす。國民必死增收を計畫するも、倘ほ大正七十年に至れば、其の需要を支持し得ずと。

○食糧問題は、實に歐洲に於ける、對岸の火災に非ずして、我當面の緊急問題也。茲に於てか、吾人が常に滿鮮農界の、獎勵、發達、改良を指導を絕叫する以所也。

○米國歸りの一人、交詢社にて、盛んに米國の物質的文明に感服するや。傍に在りたる犬養木堂、例の眼光冷かに「フン、丁度お上りの山家から、東京見物に來た、田舍者の土產噺を聞くやうで面白いよ」と。彼は皮肉に於て、實際家元たるを失はず、實に我皮肉界のオーソリチー也。

社告

長春支局開設(長春東斜街)
支局長　高橋種次郎

京城開院中は各方面の御眷顧を蒙り御芳志忝銘罷在候今回京都醫科大學へ研學の爲め今朝出發に際して御多忙中遠路態々御見送を辱ふし御厚意感謝仕候行李匆忙の際こて一々趨御挨拶も行届かず乍失禮以紙上不取敢御禮申上候
大正六年十一月十八日
鍋田善重
鍋田滿壽子

渡部製靴店
渡部製靴店出張
本店　京城南大門通
渡部支店
材料精選技術巧妙入念調製
官衙受値

電話　既設未設電話賣買を親切丁寧迅速に取扱申候
安部電話ブローカー
京城明治町二丁目六三
電話一四〇四番

漆器　指物
○本年は在品殊に豐富精良品出來販賣可仕候間多少共御用命願上候
京城出張所
京城本町二丁目
㊄丸五漆器店

鐵鋼材、浪板、平板、針金、洋釘
ペイント、油類一切
コークス、セメント、耐火煉瓦、モルタル
コップ、シャブル、帶革、ロープ、機械、工具、附屬品
田谷商店

二日目又々滿員
大阪朝日新聞連載中
悲劇　孔雀草
昨夜は降雪にも不拘立錐の餘地なき迄の御來觀を賜り九時以後の御客樣に對しては止を得す御斷り申上候　何卒五日間に限り候に付御見落しなく御來觀奉願上候
大正館

◎御齒が癒って御滿足

李王の御近狀

昌德宮内殿炎上後に於ける李王殿下の御近狀を承はるに左の如し

李王殿下には火災後樂善齋に妃殿下と共に御起居あり、其後至つて御元氣である、近頃島峰博士の口腔診察でスッカリ

□御齒の方 が好くなつたので之を何よりの事として喜ばれてゐる。何を云ふにも今までと云ふものは二十年來上顎と舌とで食物を咀嚼されてゐたのだから、普通の食事は一切食がれない、肉でも野菜でもドロ〳〵にして

□お粥の樣 なもの許り召し上つてゐたので、此の頃は假の義齒を嵌めてからと云ふものは危ふ氣ながら、段々固形物を召上がる樣になつた。其故義齒が御口に馴るゝに從ひ何んな固いものでも召上られる譯であるから、近頃は非常に御滿足で、一と通の

□朝鮮料理 は何でも撰はずに箸を把られる、夫れに西洋料理も時々差上げて見ると、何れも舌鼓を打つて賞美されるので閔長官初め近侍の内官は何れも喜んでゐる。因みに殿下は酒類は絶對に食がらず、さうかと云つて菓子も餘り好まれない、それと云ふのが是まで齒が

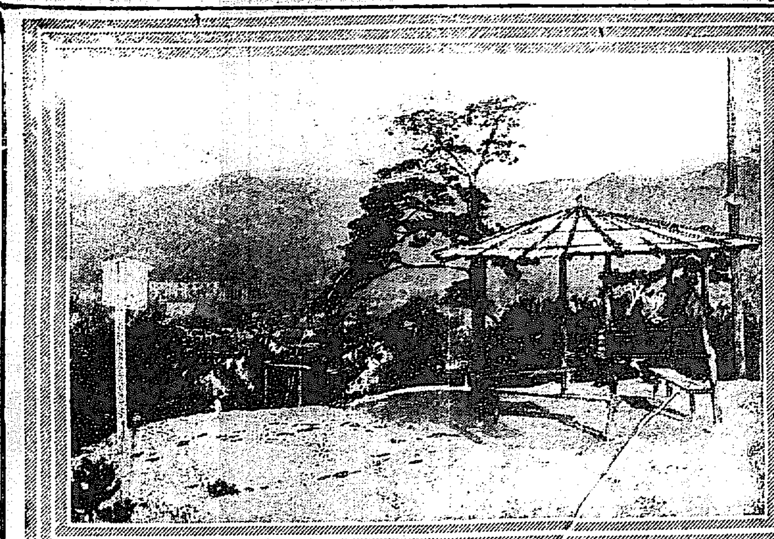
□御不自由 だつた訳で あらうが、是れから或は御好きになるかも知れない。而して殿下の一番御好きなものは烟草であつて一と頃は葉卷を一日十五六本も喫つてゐられたが國分次官が色々御健康の事を氣遣つて御意見を申上げた所が、殿下も非常に喜ばれて近頃は一日に精々六七本位しか召上がらないと承はる

□聖上陛下御還幸

聖上陛下には十八日午前六時大本營御發輦同六時十五分彥根驛御發車萬民奉送裡に東京に御還幸あらせられたり(彥根特電)

□皇后宮御還啓

皇后陛下には十八日午前十時十分京都皇宮御出門十時四十分京都驛御發車東京へ御還啓あらせられたり(京都特電)



雪の朝 ―十八日遼陽公園にて―

◆滿洲土産

(滿蒙の學校、哈爾賓の宿屋、牧畜な兵隊、警察の應援、中身は鈍刀)

上田視學官談

滿洲學事視察團一行を乘せた汽船が仁川を解纜して、黃海を乘り切つたのは十月三十日、其間の海上は可なり荒れたが、翌三十一日は

日本晴れの

▽天長節日和 前日一行を惱ました波浪は何處へ消ねたやら油を流したる如き海上で、一同東方を拜して、聖壽の萬歳を唱へ、[illegible]る船上で、一同東方に向ひ[illegible]日本人の[illegible]の代表者五名、日本商事組に敬意を表し、[illegible]の光榮を[illegible]、[illegible]から大連に渡つて、[illegible]を視察し、[illegible]から安奉線に依り歸朝した、[illegible]

▽團體旅行は 誰れもが無理を云ひ勝々を老少年に成つて無理を云ひ勝々を時々幹部を弱らせ者ね合ふなど、時々幹部を弱らせることもあるが、それも他愛も無い座興同樣で、其處に言ひ知れぬ面白味があつて、平壤の小松久夫君を除き他は一同無事で愉快なる旅行を續けて來た、視察中最も一行を美役したのは、各學校の設備完全せることで殊に

▽防寒の設備 は、[illegible]の[illegible]が[illegible]、若し觀察の時節が冬中であつたら、[illegible]ものかも知れぬが、何しろ寒氣の強い土地であるから、防寒の設備を見せつけられたのだから、一行の羨ましがるのも無理は無い。石炭の如きも、高い處で一噸四圓、奉天以北長春に至る沿線の驛では一噸一圓五十錢位で供給されて居るのだから、一噸二十錢圓さいふ我が[illegible]に[illegible]

▽較べものにならない 譯だ。スッカリ感心させられてから哈爾賓に行つたが、彼處では大に宥かされた。留が下落して十二錢五厘とあるので、汽車賃が大に助かつたと許り、ホク〳〵もので哈爾賓へ乘込むと、停車場へ宿屋から出迎への自動車が來て居たが、一行三十餘名を一度に運ぶことは出來ないと云ふ、而して宿屋の番頭の曰くサ『夜分は物騷ですよ』と然るに時は正に

▽午后十時を 過ぎてゐるのだ。一行は少からず、膽を冷やされた、可しそれなら團員打揃ふてテクルことにしやうといふので、停車場を出かけた、中には突然の事として自動車に乘つた者もあるが、不幸にして急病に罹り得なんだ者に、汗と共に銃柄を握り緊めて宿屋へ向つた。すると路の兩側に兵士が堵列してゐる、雲突く許りの大兵揃ひで、中部から西部へ輸送されるのだ。之を見て宿屋の番頭は『ポケットに御注意なさい』といふ。綿類が居るのかと言へば

▽兵士が狙ふ のだと答へる。愈々以て肚膽を拔かれ、ホク〳〵の體で宿屋に辿り着いた一行は三軒に分宿したが、僕等の泊つたのは東洋軒といふのだつた。翌日宿屋の向側に在る雜貨屋に郵便切手を買ひに行くと、其處の主人が『貴君方は應援に來られたのですか』と問ふ。何の應援かと問ひ返へせば『警察の應援でせう』と先方で極めてゐる、何の[illegible]

▽觀察に來た のだと云へば『爾うですか、近來は實に物騷で、昨日も晝間から、露兵が三人チョク〳〵私の店を窺きに來た、其擧動が何うも怪しい、[illegible]ある[illegible]貴君方が警かれたので、必然[illegible]の方に逃げないと思つて、警察の方へ[illegible]みに、一夜を寢ずに明かしました』と話すので、[illegible]

で、[illegible]を[illegible]に[illegible]されて居るのに、此始末[illegible]、拳銃は提げて居るが、中身は鈍刀だ、[illegible]以て尻が擽ぐつたく成つたに

▽實際同地で は支那兵を徵つて治安維持をやらせてゐるさうだから堪らない。言ふ程のて

◎六十四年振りで

來朝した當年八十二歲の米人

六十四年前米國提督ペルリ氏來朝の際一水兵として乘艦せる米人ハーデー氏(八二)は十七日橫濱入港のメキシコ丸にて來朝せり東京横濱兩地の歡迎盛なり(東京特電)

🐯素空總監虎物語(三)

虎の背に乘つたのが動機で大泥棒の改心

◆或庭に李書房といふ界隈切つての大泥棒がゐた。或晩その李書房が或家に泥棒に入らうと思つて家の外から人の氣配を窺つてゐる處へ、大きな虎が一匹やつて來た。それはその家の人を咬へて往かうと思つて來たらしかつた。ところが家の中では小供が頻りに泣いてゐた。すると小供の母は『そんなに泣くと虎が來ますよ』と云つて子供を嚇したけれども何うしても小供は泣き止まなかつた、母は仕方なく『そんなら柿をやるから泣くな』といふと小供はパッタリと泣き止んだ。虎が外で聽いて居て自分が來ると云つても泣き止まなかつた小供が柿をやるといはれて泣止むのを見ると柿といふ奴は自分よりもずつと偉いそして怖い奴に違ひない。一體どんな奴だらうと考へながら牛小屋の前へ停立んで居た

◆子供は泣き止む家の中がヒツソリしたので李書房は牛を盜んで逃らうとノソリ〳〵と牛小屋の前に往きかけると其所に大きい奴が蹲つて居る先白虎とは知らず引張つて連れ出した。ところが虎が考へるに自分を引張る奴がある此奴はテッキリ今聞いた柿といふ怖しい奴だなうつかりしてはどんな目に遭ふかも知れぬと匿くなつて了ひ。引張られるまゝに出て往つた。李書房は得々として虎を引張つてゆく中に段々疲れて來たので、これは一つ乘つて往かうと虎の背に飛乘つて悠々と道つて往き居ると。その中に夜が明けかけて村の人達も戶を開けて外に出て來た見ると此の界隈で有名な大泥棒の李書房が得々として虎に乘つて往くものだから皆は驚いて『彼奴は流石に大泥棒丈に氣に俘らい。虎に乘つてゆく哩』と口々に囃し立てた。

◆それを聽いて李書房ヒヨト下を見下すとこは如何に自分は牛だと思つて乘つて來た奴が牛ではなく大きな虎であつたので驚いて飛降りた。すると虎はやつと命が助つたと逃げて往た李書房は是れが動機に改心した村の人は彼が改心したのを悅んで到頭村長に推選したさうな。

◎贈位

十七日左の通り位階追陞及び贈位の御沙汰ありたり(東京特電)

▲贈正一位 織田信長
▲贈從三位 伊井直孝、伊井直仲、前田治修、藤堂孝發、松平定綱、加藤義明、伊井直政、戶田一西
▲贈正四位 豐島泰盛、秋寺常安、前田利明、前田利次、市橋長義
▲贈從四位 岩垣松苗、竹原八郞、森寺常邦、[illegible]
▲贈正五位 岩垣彥明、城多董、高橋宗和、石田稻平、永井忠實、大[illegible]、谷昌平、山田重忠、鈴久氷、[illegible]定範、菊池[illegible]助、[illegible]、戶野[illegible]衞
▲贈從五位 油川信近、山岡左次衞門、與謝野禮嚴、南河五一郞、末吉孫左衞門、[illegible]、江馬正人、伊藤[illegible]右衞門、[illegible]四郎、石黑藤右衞門、岩垣六藏、大野木源藏

◎贈位と其府縣

十七日別項の如く織田信長公以下に對し位階追陞又は贈位の恩命ありたるが其府縣別左の如し(東京特電)

▲京都府十一名▲大阪府[illegible]▲兵庫縣一名▲奈良縣五名▲[illegible]縣二名▲滋賀縣[illegible]▲石川縣四名▲[illegible]和歌山縣一名

◎漁夫十一名

山口縣に漂著

去る十日慶北迎日灣外にて行衞不明となりし十一名乘組みの漁船は四日間漂流の末辛くも途に山口縣[illegible]浦[illegible]角島に漂著したるが一同何れも生命には異狀なしと

◎不正漁夫檢擧

三重縣河藝郡白塚村生れの石田由松(三八)が船頭となり大分縣生れ[illegible]田熊八(三八)三重縣生伊藤末藏(三三)の二名と共に本月八日慶北九龍浦沖にて不正漁業中を浦項分隊の手に逮捕され又同日香川縣生れ今津德太郞(五〇)窪上藤一(三〇)大西[illegible]之助(三四)の三名も同[illegible]九にて浦項分隊に檢擧され[illegible]調べ中

◎白鐵泥棒

大邱大[illegible]九(二〇)は[illegible]る七月九日より本月九日に至る間に於て白鐵三百八十匁時價一圓[illegible]する[illegible]の物を[illegible]竊取したる事發覺し本月十四日檢事局へ送らる(大邱)

特別大寫眞 ▽妓王の插話

靑霞生

◆特別大寫眞[illegible]、野洲[illegible]に[illegible]妓王村を通つた[illegible]さいふ平家物語中の[illegible]がありとは思はなかつた[illegible]か舞ひ地には大砲小銃の音がするなかで

◆平家[illegible]の[illegible]その物語を聞た

[illegible]

大島紬

薩摩國產 大島紬 △久米島紬 △琉球絣 △薩摩絣 △其他國產織物種々

右特製品豐富に取揃へたり。何卒多少に不拘御用命願上候 御注文の御便利を計り新誌(時裝)及現品見本は御一報次第御送付可申候

鹿兒島市 明治屋吳服店

讀者文藝課題及募集規定

□募集規程 ▲用紙は端書又は同形の用紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事 ▲[illegible]

讀者文藝 (一句に五十錢 [illegible])

△謎『醫者とかけて』

○火山と解く心は脈次第(一等) 京城 和氣 水月
△寄物屋の店頭と解く心は笛もある 元山 風見 [illegible]
△光圀公と解く心はやぶには[illegible] 水原 松の島人
△戰爭と解く心は間者(患者)を見る 利川 ふの 宇
△西洋人の挨拶と解く心は大抵にざる 沙里院 若林きみ子
△提灯と解く心は暗(く)が必要 利川 うらなり
△花合せと解く心は藥(役)合せが肝要 [illegible] 鱉
△雷獸と解く心は耳な塞いで鳴る遠く 利川 花柳 鳥

◎木曜倶樂部 [illegible]

◎取消 本月十日發行當紙三面[illegible]に關する記事中[illegible]局に於て[illegible]全然右の如き事實無之に付正誤[illegible]

[illegible]

演藝案內

◎正誤 十一月十八日附本紙夕刊廣告中「男岩本町」とあるは男岩本町の誤植に付茲に訂正す

有樂館

[illegible]

壽館

京城本町 電話一〇五〇 [illegible]

大正館

本町三丁目 電話八七 [illegible]

黃金館

電話 二三六三、二三六六 [illegible]

東洋一 行(新形)の魁 內田式ストロンゲ靴は堅牢優美價格一層低廉 旅行用 靴と鞄 東京市芝區 內田靴鞄製造問屋 電話 一五五一 振替 一八七一

朝鮮總督府法定消毒藥 アイゼル液 無比の防臭作用と殺虫力を併有す 京城 井上藥品部

營業品目 肥料部 蒸製骨粉、乾血、蹄角粉、星印配合肥料、細工用地骨、細工用蹄角各種膠及膠原料 石鹼部 化粧用石鹼、工業用、家庭用石鹼、浮石鹼、粉末石鹼、牛脂、椰子油、鯨油、其他油脂類、苛性曹達、洗曹達
京城東大門外紅藥町 朝鮮肥料製造所 電話二六三五番
京城岡崎町一四番地 朝日石鹼製造所 電話二五六四番 電話九七三番 振替口座京城〇〇四番

最新式 仕立 背廣冬服(三ッ揃)
特 (スコッチ、霜降メルトン、紺メルトン) 金參拾九圓
甲 (ラグダメルトン、ホームスパン、スコッチ) 金參拾六圓
乙 (紺メルトン、スコッチ) 金參拾圓
オーバーコート
△オーバーコート專用厚地羅紗揃居候(特 金參拾七圓 甲 金參拾八圓五拾錢 乙 金參拾四圓) 地方は御申越次第見本帖と寸法取調書御送付可申上候 外五十錢 二十錢
京城太平通二丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

永久に家庭の愛用品たる ツバメ齒磨
常用せらるゝ三大理由
■化學的に齒を強く美白ならしむ。
■純良無比の高貴原料を使用す。
■芳香清冽防腐殺菌力强大なり。
大阪 東京 丹平商會發賣

◎格鬪の儘河中に墜落す

て支拂ふべしと詐し聖を運搬しつゝ、[illegible]間道したる雇人より大圓九十錢[illegible]け惡化洞に通ずる土橋の上にて格鬪したる金員は格鬪中遺失し取押へられたり因みに春植が窃取[illegible]を受[illegible]以下[illegible]

[illegible]

晴れ後曇り 十一月十九日 [illegible] 日出 七時二十六分 日沒 五時二十一分 [illegible]

…一袋(三圓十錢)を買求むる…

●滿蒙經營上の大懸案は食物

樺山南滿洲鐵道理事談

近年朝鮮人の滿洲に移住する者年一年增加し各種の勞役に從ひ今や其の數決して僅少といふべからず滿鐵會社に於ても之等

▲朝鮮人勞働者 を能ふ限り多く鑛山其他の方面に使役せんと試みたるも如何せん之等の朝鮮人は何れも日本人と同じく米食人にして米を產せざる滿洲奥地に在りても米食に由らざれば生活する能はざるの不便あり隨つて彼等は食費の不廉に伴ひ支那勞働者と同一又は其れ以下の勞銀にては生活する能はざる事情あり今後朝鮮人の滿洲移住に關しては第一に

▲糧食の改良 を圖らざるべからず滿洲各地方に近年試作せらるゝ水稻の成績は可良なれども米價は比年騰貴一方なるを以て今後下級勞働者の食糧に適せざるに至るべければ是非彼等として大陸的糧食に馴致せしめざるべからず即ち滿洲至る處に產する高粱、玉蜀黍、粟等の食糧に馴るゝに非ざれば今後彼等の

▲滿洲發展も 自然と或る一部分に局限せらるゝに至るべし飜て之れを邦人の上に見るも亦大いに研究すべき問題たるを失はず即ち我國人口の增加は昨今米穀收穫の增進率と相伴ひ目下食糧の不足を告ぐるに至らざるも今後三十年を出でずして米穀收穫の增進率は人口增加に後るゝに至り年一年多くの不足を告ぐに至る事は明らかなる昧に

▲一朝有事 の場合滿洲の我軍隊及び其の居住邦人が一々米穀を母國又は朝鮮地方より仰がざるべからずとせば之亦甚だ心細き次第なるを以て滿洲の產殺に依りて邦人の嗜好及び營養に適する食糧の改良を圖る事は滿洲經營上の一大懸案たるべく初めに先づ之れを朝鮮勞働者に試むが最も便利なるべし(京大)

●吉長地方產業(一)

千古に鎖せられし大富源

吉長鐵道借款の改訂は日支兩國間多年の懸案なりしが愈々客月中旬北京に於て南滿洲鐵道株式會社代表者龍居理事と支那側代表交通總長曹汝霖、財政總長梁啓超氏との間に協定調印を了し其

▲結果として 南滿洲鐵道會社は明年度より長春吉林間八十哩の鐵道經營を引受けたる事は周知の事實なるが吉長線は日露戰役後故小村外相が吉長線の將來滿蒙經營上重要なる鐵道となるべき事を認めポーツマス會議後北京に於て締結したる日清鐵道條約の結果吉長鐵道借款二百十五萬圓を滿鐵會社より支那政府に交附し支那政府の資と合し銀三百六十五萬兩を以て明治四十二年十二月起工式を行ひ

▲幾多の曲折 を經て大正元年十月開通し其の延長僅々八十哩に過ぎずと雖も南滿鐵道の最北端に於て長春吉林府とを接續せしめ其の富源開發の要路たるのみならず更に我國は日清協約に明記せる如く吉林會寧二百八十哩の借款優先權を有するを以て將來吉會線の開通を見るに至れば吉長吉會兩線を通じて北滿洲及び北朝鮮の開發の幹線たるのみならず軍事交通上重要なる鐵道たるべく最近吉長線の視察を爲して歸任したる堀滿鐵課長の談に依れば滿鐵の

▲吉長線經營 は如何なる程度迄實務に當るやは今より知る能はずと雖も該線經營の一著手として線路の改修を爲さゞるべからず吉長鐵道の線路中には三十分の一と云ふが如き急勾配あり斯くては到底長き列車を運轉せしむる事不可能なるを以て先づ線路の改修を爲し漸次に一般の改良を圖るべしと同地方の產業は

▲極めて幼稚 なれど木材、木耳、鑛產物の豐かなるありて大の豐富なる向藥煙草、麻、雜材、紙組にては滿鐵の吉長線經營と共に吉林附近に於て大規模の製材及び製紙の經營を開始する筈なるが此の他にも同地に於て事業を計畫する者尠からず(大陸)

●南滿製糖近況

△來年度の植付增加

火入式は十一月十七日

奉天南滿製糖會社は愈よ諸般の準備進捗したるを以て來る十七日機關火入式を行ひ同日より一部機械の運轉を開始する筈なり而して製糖機械の全部は未だ据付を終らず晩くも本月末迄には完成の豫定にて火入式後製糖機械のみは日々運轉するものなりと之れと同時に原料甜菜運搬は來る二十日より開始し日々數百噸宛耕作地より工場に移送さるゝ筈なり甜菜成績は大體頗る優良なるを以て之れが一部止り中には不良のものもあれど滿洲初年の耕作としては極めて好績なるものなれば來年度の甜菜栽培は幾多初年の經驗によりて播種期を數十日間早め四月下旬を以て播種を行ひ雪解け後の水分を利用して發芽の効を助け又甜菜には最肝要時の五六月頃に於ける蟲害も除くを得可し之れが栽培面積も初年の四萬畝に比し約二萬畝を增加し六萬畝を耕作する豫定にて已に一萬餘畝の新契約を了せり(大)

●蒙匪復た猖獗

拉爾よち逃亡せし蒙匪等は其後索倫附近の哈爾甲地方に聚集して蒙徒を糾合中の處今や其數四千餘人に達したるを以て天寶地方の時を待ちて大擧進攻せんとの計畫を立て同地一帶の人民中資產ある者は皆八方に逃避しつゝありと

●陸地棉に關する鮮民の感想

某憲兵分遣所長報告

產米の奬勵及び當局の施設は漸次其の歩を進め著々其の効を奏し人民又之に依頼し自動的に諸般事業上に悅ぶべき現象にあり然れども陸地棉のみは本年著しく不作なりしは現在共同販賣に關しつゝある取引に徵し明かなるを以て棉價は頗に高價なりと雖も實收僅なく苦情を唱へつゝあり抑も本年の不作は天候又は種子の不良なりし等種々なる原因あるべきも當局の種は非常なる豐作にして相當の價目を盜みて山間に播種したる在來棉は收ありたるとのことなるを以て之を見聞したる一部鮮民は陸地棉の不利なるを感じ居るが如く當局が如何に勸奬又は強要するも本年後は一切陸地棉を播種せざる旨を唱道するものあり殊に民智の發達と共に權利義務を主張しあるも其動搖せる民心は翌年度に於て影響するに至るべしと思料せらる依て直ちに其の局に當るもの今より此の覺悟を以て其利害關係を徹底せしむるは將來の奏効上蓋し無益ならずと感ずるのみならず當局に於ても之に應ずるの計畫ありたし(大邱)

□大連印象記

○昨年以來大連市の發展は著しいものである統計に由れば本年一月より六月に至る上半期ばかりでも其の建築は二百十三件三百二十三棟、建坪一萬二千五百八十九坪餘、此の建築費は一百九十萬五千圓に上つて居るから十萬圓以外の住宅を增すのであるが猶ほ今日に於ても家屋拂底の狀態である市中を一寸でも歩いて見ると貸家の札を見る事は少い○然るに大連に來て見るといふものは確かに一軒もない空家が出來たと云ふ事であれば十一月に入つて少しは貸家札が出るかと思はれるが○それでも空家に貸家札を貼る樣な事は滅多にないから新來の借家人は一寸面喰はぬ譯には行かぬそれで宿屋や知人やらに心配して貰ふと家主は家は貸しても好し貸さなくても好いといふやうな挨拶をする要するに容易く貸家を出さない能度だ此の邊は一寸他の市街で見るべからざる現象である畢竟大連の景氣の盛んなる事を證據立てゝ居る

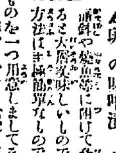
○渤海から來るか蒙古から吹くか知らぬが大連に風の無い日は稀である、氣溫は左程に降つて居らないが風の爲めに可成に寒さが浸み渡る、大連の家屋は此の寒風に對する充分の設備がされて居る室內に居れば每日の風も苦には成らぬ地震には耐へられないそうにない建築も風ならばまあ餘程強いのが吹いても心配はない(長城生)

白山黑水

△滿洲の楊柳を見た人のはなしではこちらの柳は研究すれば面白いといふ△柳は由來其の葉と花を見て區別するのだが採集にはなか〳〵困難な爲めその道の者を弱らさうなものである△現に昨今朝鮮に來て居る米國人のウヰルソン君なども東洋の植物に就いてはなか〳〵のオーソリチーながらまだ手を着けてゐないといふ△頃日滿鐵の滿洲線に乘ると一二等客車は全部支那人に占領された有樣である△これは銀相場の關係で從來の三等賃金で二等に乘れる爲めださうな△茶を出しても茶代を置く客樣となる支那人が多いのだ相な

人と何の異りのあらう筈もないのは當然ながら些しはまた日本人の威嚴といふのにも考へ及ぼしたい△それには何より車掌その人の手加減を要することが第一である△頃日長春から哈爾賓へ行くには二等で汽車賃二圓內外十圓もあれば往復してお土產が買はれるといふ有樣△但し旅行者は匪賊の物騷なとを御承知の上で生命のかけ替へを持つておいでなさいとは京城日報にこの頃書いて來た人のみならず…(東籬)

卵の味噌漬



台所 の

▲卵の味噌漬 之は酒肴や燒魚等に附けて食べると大層美味しいものです方法は極く簡單なものです深い丼の樣なものを一つ用意しまして之れへ白味噌を七八分目位入れ味噌の表面を丁寧に平にならし其上へ美濃紙を二三寸四角に切つたもの(丼の大きさによつて幾枚も並べ)其紙の上から卵を押しつけますと味噌が卵形に凹みますから其窪みへ卵を破つて流し込み二三日置きますと卵は美濃紙を離して味噌漬になります

おとぎばなし 柿の木の烏

柿の實が赤くなると、いくつも〳〵熟してゐる、柿の木に、一羽の烏が飛んできまして、

『やあ、これは旨しさうな柿の實だ。早速頂戴するよ。』

と言ひながら、眞黒い嘴で啄きはじめました。柿の實は啄かれながら、

『お痛アー。』

烏はびつくりして

『チニ、痛い？』

『痛いよ〳〵、さう啄いちやー。』

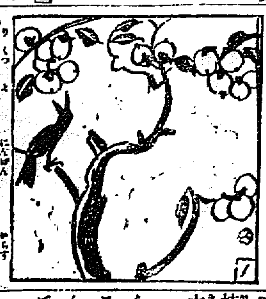
『馬鹿を言へ。痛い筈があるものか。』

『貴樣こそ馬鹿を言へ。痛くない筈があるものか、啄くのは止して呉れ、止して呉れ。』

『止すものか、貴樣は食べられる爲めに熟したのぢやないか。』

『食べられる爲めに熟したのには違ひないが、君に食べられる爲めに熟したのぢやないよ。人間に食べられる爲めに熟したのだよ。』

烏はフンと鼻で笑つて、



1

『理屈は止せ、人間だつて烏だつて同じ生者だ。皮を剝いて食べるのと嘴でぢかに啄いて食べるのとが違ふだけだ。』

『僕はその嘴でぢかに啄いて食べられるのが大嫌ひだ。賴むから止して呉れ、烏さん〳〵。』

『いや止さない、止すものか〳〵ぐづ〳〵言はずにじつとしてをれ。核まで啄かうとは言はないから。』

と烏は少しも遠慮なく、一つの柿の實を食べてしまつて、二つ目の柿の實を啄きはじめました。柿の木の柿の實どもは騷ぎ出し、

『今に僕等はすつかりあの烏に平らげられてしまふかも知れない。こら〳〵烏君、もう止し給へ。そして君は魚の腸でも探して食べて呉れ。』

烏は首を何度も振つて、

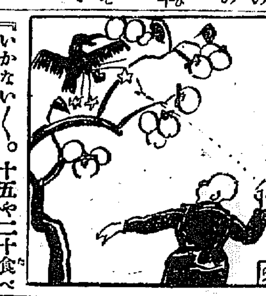
『いやだ〳〵。魚の腸よりも柿の方が甘くて旨しい。チユツ、チユツ〳〵。』

と烏は舌皷を打ちながら、二つ目の柿の實も食べてしまつて、三つ目の柿の實を啄きはじめました。柿の木の柿どもは聲を揃へて、

『まだ食べるのか烏君？』

『まだ食べる、まだ食べる。』

『三つだけで止すわけにはいかないか。』



2

『いかない〳〵。十五や二十食べたぐらゐではお腹が一ぱいになるものか。』

『こりや驚いた。本當に僕等はすつかり食べられてしまひさうだ。ね、ね、烏君もう食べるのは止して呉れ給へ。止さなけりや此方にも分別があるぞ。』

『分別がある。どんな分別だ？』

『皆して君をなぐり附けるよ。』

『なぐり附ける。僕をか。』

『無論だ。』

『こりや面白い。なぐり附けるならなぐり附けて見ろ。』

と言ふ時、柿の木の下にそつとやつて來たのは柿の木の持主の長太郎！

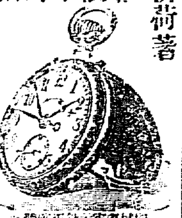
『烏奴、畜生！。』

と言ひながら、拾つて持つてゐた石を烏にぶつけますと、うまくその石が烏のお腹に當りましたので、烏は柿どもになぐられたことだと思つて

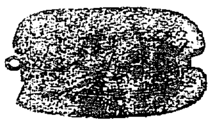
『や、本當になぐられた。これは叶はん。痛い〳〵。あア痛い！。』

と一目散に逃げ出しましたとさ(をはり)

新刊著 懷中時計



石炭 明治町 村山商行 電話一〇五一



專賣特許 僞物御注意
龜の子たわし
東京本鄕 西尾商店

健康となる金科玉條は
美味滋養
蜂印香竄葡萄酒を
毎食前飲用するにあり
さすれば 血を增し 肉を肥し
知らず識らず健康體となる
金牌二十四個

淋病新藥 ツヨール
發賣元 大阪道修町 田邊五兵衞

登錄商標
滋養强壯 芳香美味
蛇の目印ポートワイン

(現品縮寫圖)

本品は最も優良なる天然純良葡萄酒を素とし有効なる補血强壯劑を配合し精製せし醇良無比の甘味滋養葡萄酒なれば御愛飲の御方は消化を助け食慾を進め血を增し肉を肥し殊に誇るべきは精力を强くする等一般御家庭に於て日常御飲用せらるべき絕好の理想的滋養强壯飲料なり

賣捌所は全國到る處の洋酒、和酒、鑵詰、食料品店及藥舖、雜貨店にあり

【類似品あり登錄商標◎蛇の目印及松下善四郎に御注意被下度候】

發賣元 洋酒 煉乳 食料品 家庭藥 鑵詰 雜貨 直輸出入商
大阪市東區高麗橋貳丁目
(カ) 松下善四郎
電話本局 一八五 長一八六 長八二〇
電信略號 マツセ 振替口座大阪 一六

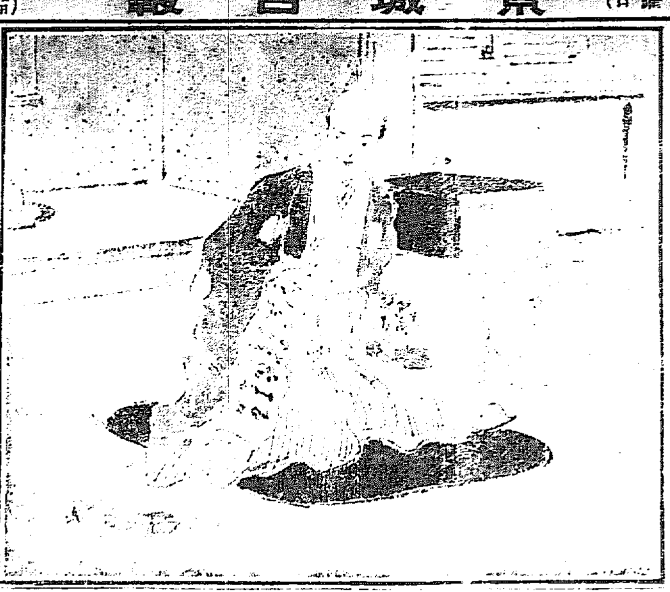
左甚五郎

第八十八席

桃川義燕口演
浪上如三郎速記

家主清左衛門は支度をして源吉の處へ出向て參りました 清『源吉さん支度は宜いかね 源『只今支度をして居ります 清『出來上つた面は何うだね 源『此處にございます 源『大層永くかゝつたね、一度も俺に見せてくれない 源『イエ是は俺に入れない方が宜うございます 清『ダけれども一度見せて貰ひたいものだ、俺が先方へ行つて話しをするに全然見ずに置いては話しが出來ないから一寸見せておくんなさい 源『阿袋さん何うしませうか、御覧に入れても宜いでせうか

[illegible]申したので 清『[illegible]こんな物とは思はなかつた、此の面箱は源吉さんお前が持つておつておくんなさい、迚も俺には持つて行けないから 源『私が持つて參ります[illegible]



『然うさね、折角然う被仰るものだから見せてお上げなさいな 源『然し驚くと叶けませんから 清『冗談云つちやア叶けねえ、どんな面か知らねが見て驚く奴があるものか 源『それではお見せ申しませう と源吉は面箱を膝の上に載せて紐を解き蓋を拂ひ面を取出して 源『差配さん此面が葵の上と申します般若の面でございます、能く御覧下さいまする樣』と云つて吊を取除け清左衛門の前へ出した、イヤ凄いの何んのと云つて源吉が一心をこめて彫上げましたる葵の上の面、清左衛門が一と目見て吃驚いたしブル〳〵と慄へた 清『も宜いからしまつておくれ 源『イエ能く御覧下さい 清『こんな凄い物は見たことが無い、早く藏つておくれ、恐しい物を彫る男だ』源『それだから御覧にならぬ方が宜いと

[illegible]を持つて參りますから、是れで咽喉を突いて相果てまする、何うか然う思召して下さいまし 清『エッ、それおやア何かい、此の面が納まらないと傷れば其の身は咽喉を突く、ウーム……』源『差配さん迚に濟みませんがお神が自害をしたと云ふことを聞きましたら御近所に親る者も無い女故、此家の棟で首を縊らうと思つて此の通り細引まで用意をして置きましたから、何うか宜しくお願ひ申しまする 清『まア阿袋待つておくれ、俺の[illegible]

家で首かを縊られて堪るものか、飛んだことを云ふやアならねえ、源吉さんも決して心得違ひをしちやアならねえ、俺が一緒に行けば悪いやうにはしないから一緒に清左衛門は母子を和めて源吉と同道いたし木挽町の御贔屓の邸へ參ります。此方は御世大夫、何うか無事の葵の上の面を作りたいと心得まして十年も前から其の支度にかゝつて居つたが、何分面の宜いのがありません[illegible]

眼科醫院 [illegible]

年期刺繍弟子十五歳位の者募集

帯 半衿 ゑり治 京城旭町一丁目 電話二五六番

日本醤油株式會社出張所
ヨほまれ味噌
電話二四五番

書籍御案内
桃川如燕 名婦傳 定價六〇 郵八
早川貞水 義士傳 六冊各定價四〇 郵六
德富蘆花 外交奇譚 定價二五 郵四
同 自然と人生 定價三〇 郵四
同 青蘆集 定價二五 郵四
同 青山白雲 定價二〇 郵四
德富猪一郎 世界の變局 定價二〇 郵八
京城日報代理部 (振替京城三〇)

苦しい 婆の經驗
[illegible]
から早速買つて點したところ直ぐに効能が見れてそれから間もなく逍の眼病も全然治りました其時ほど嬉しい事は無かつたと或る婦人は話られました。
大學目藥
大阪市東區北濱一丁目
發行所 合資會社 参天堂藥房
十才以下の小兒の爲めに特に小兒用大學目藥あり

てんかん
病で時々ヒキツケ起る方切手二錢封入申込まれよ永年の病も自宅でヒミツに治す事の出來る良い本を無代進呈す
名古屋市南小川町一 救生舘

複方 ヨードカリウム丸
淋疾内用 ゴノレヤー
龍山 林藥房
山岸天佑堂
大黒南海堂
森田草藥堂

陸軍拂下
佐藤古着店

髪は手入
髪の良き人には愈良く惡き人は一時で忽ち漆の黒さとする 植物性美 毛劑加味
ホーカー美髪液
東京和泉橋 岡崎書太郎商店 (一五六)

京城日報

十九日朝刊 (朝夕刊併せて八頁)

本紙定價 [illegible]
廣告料金 [illegible]
發行兼編輯人 奥田直
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 京城日報社 電話 [illegible] 振替貯金口座京城三〇〇番

…六叺にして之を各檢査所別にすれば[illegible]合格三千六十二叺特等一等無く二等二五九叺三等二八叺[illegible]尾六百六十三叺[illegible]して一等二六叺二等四叺[illegible]二一一九叺不合格七叺浦項一五千五百七十八叺にして一等[illegible]叺二等二五三叺三等[illegible]六叺不合格四〇六叺なる[illegible]錢在來種十九圓六十錢[illegible]二十圓小粒十九圓六十六錢在來種[illegible]九圓三十三錢淸道大粒二十七圓[illegible]錢小粒二十圓[illegible]浦項大粒二十一圓[illegible]小粒[illegible]五叺にして總移出數一萬五千五百七十八叺なり大豆の部にて總檢査數八萬千五十七叺にして內一等三百二十三叺二等一萬七千五百九叺[illegible]三六叺二等一三六三叺三等一〇五六五叺不合格[illegible]叺大邱一萬八千六百六十八叺にして一等一五[illegible]一、一九二叺なるが其價格は金泉十圓六十錢龜尾十圓五十錢倭館十圓九十錢大邱十圓[illegible]浦項十圓[illegible]八萬千五十七叺なるが[illegible]年は昨年に比し直接內地へ移出直送したるもの極めて多く內地各地方到る處不當大豆の供給を受けつゝ[illegible]

支那漫遊

團城の午餐會

蘇峯生

昨日は梁啓超氏の午餐會に、團城に赴く。團城は北海に臨み、海中の瓊華島と相對す。團城とは專らて築き上げたる平臺也。其上に承光殿あり。而して梁氏の寓は、殿側の壁上にあり。景山、白塔山、玉蝀橋、皆な窓中より指顧す可し。一支那官人、予に揖して曰く、御身は日本の梁啓超にして、梁氏は支那の德富蘇峰なりとは、我等同人間の評判なり。知らず御身の所見奈何と。予曰く、未だ其の當否を知らず。但だ日本の梁啓超は、不幸にして未だ此の如き佳邸宅に、住するを得ざるのみと。

曹汝霖氏は、頻りに日本料理通を振り廻はし、話は端なく天金の天麩羅に及ぶ。予も亦た一個の天麩羅博士也、豈に沈默するを得んや。乃ち逐條辯證に入りて、橋善より魚河岸に至り、底止する所を知らざらんとせり。北京の御馳走の席上にて、東京の天麩羅を談ず。張翰が鱸魚の膾を憶ふも、偶然にあらざる也。

承光殿は、遼の蕭后の粧樓とも云ひ、又た金の章宗の寵姫、李宸妃の粧臺とも云ふ。乃ち約法會議の場所にして、中華民國に取りては、新らしき歷史の場所也。其中に白玉の觀音の坐像あり。其の容貌の端麗なる、殆んど人を魅殺し、惱殺し、愛殺せんとす。與謝野夫人は、鎌倉の大佛さへも、美男子と謠へり。されど此の玉佛に至りては、眞に好女の典型たるに庶幾し。予は梁氏に向ひ、公は此佛に隣し、定めて永夜の寂寥を、慰するならんと云へば、彼は頭を掉りて、應接奔走、佛意に孤負する多[illegible]へり。殿前に碧玉製の大香爐あり。時價百萬元と稱す。其側[illegible]あり、葉は松にして、幹は其皮は紫薇樹の皮の如く、[illegible]に剝脫しつゝあり。蓋し奇樹也。

大正六年十月廿一日晨 北京に於て

支那の魔力

予等は今朝を以て、南口より張家口に、更らに大同府に赴かんとす。北京は霜秋の無風にして、大同府は積雪也。

支那には何と申しても、多少の魅力あり。暫らく滯在すれば、何となく人を吸ひ込む力あるを覺ゆ。古今一切の征服者が、却て事實に於て、征服せられたるも、偶然にあらず。支那人の辭令は、人を魅するに餘りあり、支那の料理は、人を饗かしむるに足る。予或る支那人に向て、餘事は兎も角、口に關しては、貴國は世界第一ならんと云へり。蓋し辭令の妙と、料理の精とを並べ味する也。此の御馳走と、此の御世辭とに取り捲れて、尙ほ懐柔せられざる者あらば、それは所謂る强者の一人なる可し。北京は一週間居りても可也、一年居りても不可なし。其の現在の支那は政治的政局以外に、歷史的興味頗る多ければ也。近作あり。

太液池邊柳葉飛。景山樓閣鬱巍巍。人家百萬秋色裡。白塔峰頭看落暉。

是れ北海に於ける所見也。

遼金遺跡剩三霸。約法未成民國開。玉佛何關塵世事。慈容含笑迎人來。

是れ團城に於ける卽興也。前回の通信と參照あらば、詩中の意義自から分明ならむ。白玉の觀音樣には、排日もなく、親日もなし。一視同仁、如何にもにこ〳〵して、愛相善き風情也。

大正六年十月廿二日午前五時 北京飯店第四號室に於て

大演習地と史蹟 (三)

青霞生

▲觀音寺山の戰● 尾濃二國を傾して戰國永祿年間に威名赫々たる織田信長は永祿十年十一月僊瀨なる皇室の密勅を奉じ翌十一年七月足利義昭を其居城岐阜に迎へ以て京師回復の依囑を諾せり時に京師に於ては三好三人衆と三好長逸、同政康、岩成左通の三人權を擅にし阿波の公方足利義榮を奉じ京師は殆んど無政府の狀態なりき是に於て三人衆は信長の義昭を奉じて大舉西上せんことを恐れ其通路に當れる觀音寺の城主六角左京大夫義賢入道承禎に喚はすに利を以てし且曰く力を竭して信長を拒ぎ持久せば我等大軍を以て後を爲さんと承禎之に從ふ八月十日信長數十騎と佐和山(彥根の東)に到り使を觀音寺に遣はし承禎に說に順逆を以てし西上の經道を借らんことを求む使者三たび之に赴きしも承禎遂に聽かず是に於て信長岐阜に還り諸將を會して方略を議し、九月五日を期し諸將の兵を岐阜に會せしむ期に及びて來り會するもの約三萬人、信長之を率ゐて九月七日岐阜を發し同夜平尾に次し八日高宮に著し兵を休むること二日、十一日進んで愛知川に陣す是時に方り六角承禎は領內十七城の防備を修め騎を嚴くし壘を深くす而して和田山、箕作山の兩城は觀音寺の本城と鼎立して左右の掩護を爲すを以て其防備最も嚴なり而して和田山には大原承賢等の兵一千を置き箕作山には吉田賢重等の兵一千を置き(一說に承禎の子義弼箕作城を守ると云ふ)承禎自ら兵三千を本城に備へ首尾相應ずるの策を取り是に於て信長敵情を偵察せんと欲し十二日未明自ら坂井政尙森可成等五百騎を率ゐて敵城に近づく箕作の城兵步卒を出して挑戰す政尙等討て之を卻け首級八十許を得て愛知川に歸り諸將を招きて曰く先づ箕作を攻めんと欲す如何と坂井政尙曰く箕作觀音寺相距る遠からず承禎必ず相應援するの策あらん宜しく先づ觀音寺を抑へ二城の連絡を絕つべしと信長之に從ひ使を小谷に遣し淺井長政に命ずるに速に兵を率ゐて來り會し觀音寺城の監視を爲すべきを以てす長政逡巡して果さず使者復命せしは翌十二日なり信長長政の恃むべからざるを知り乃ち稻葉長通、安藤範俊、氏家卜全(世に之を濃州西方三人衆と稱す)を以て和田山城を監視せしめ自ら柴田勝家、森可成、坂井政尙等を率ゐて觀音寺城に備へ佐久間信盛、丹羽長秀、木下秀吉及び德川の士松平信一小笠原長忠等の兵四千五百人を以て進んで箕作城を攻めしむ淺井新八郎嚮導たり佐久間等の隊進んで攻擊を開始す時に九月十二日午後四時頃なり城將吉田賢重建部信勝防戰甚だ力め容易に拔く能はず建部信勝出擊して南方より攻擊する三河兵を擊退す松平信一兵を叱咤して返戰す三河の兵之に勵まされ死傷を顧みずして前進し城門に迫り喊聲山を動かす北方面

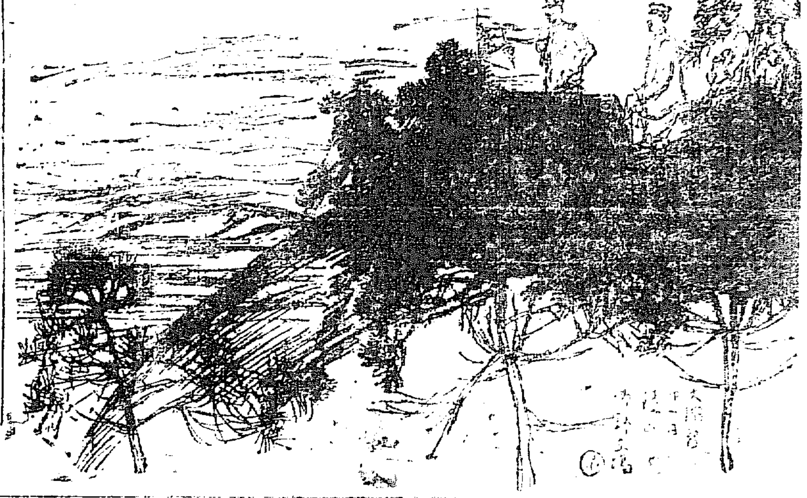
戰死せんと首唱せしが其老臣三雲新左衞門等頻りに一度退きて後圖を爲さんことを勸めしに因り承禎之に從ひ其夜城を出で、遁れ甲賀郡に入れり信長翌日城に入る佐々木氏十八代六百餘年の居城は此の如くにして一朝に敵の有に歸せり

▲箕作城址● 觀音寺山の南方、八日市町の西北に聳ゆるものを箕作山と爲す亦佐々木氏の據る所なり其戰鬪は觀音寺山城の條に述たり

▲老蘇森● 老蘇村東老蘇に鎭の宮あり延喜式に所謂奧石神社なり此附近より西老蘇一帶の森林を古より老曾の森と云ふ和歌に著名也

忘れにし人をも更にあふみなるおいその森に思ひいでぬる

▲和田山城址● 和田山は觀音寺山の東北に在りて愛知川の左岸に獨立せる丘阜なり永祿十一年觀音寺山の役六角氏の將大原賢永等の嬰守せし地にして箕作と共に觀音寺の支堡を爲して鼎立せり其戰況は既に前に述ぶる所の如し



鐘山御野立所

誰 (十八)

布施生譯

[illegible]れに氣付いたので老人は前以て夫人に詫び『今日は何[illegible]すけれど[illegible]ちやんをつれて一寸[illegible]物に行かうと思ひます』『何時往くね』『御飯が濟んだら直に參ります』老人は思はず吻と一息ついた。

食事が濟むと老人は例の通り卷煙草に火をつけたが平常のやうに吸ふ事はせず用事がありそうな顏をして急いで事務室へ引上げた、引上げる前に家に殘つた次男の淑夫をも用事に托けて使に出した、そうしてぢつと待つてゐたが妻と琴嫁とが出てゆく迄の三十分足らずが百年もたつた程に待ちきれなかつた、二人が愈々出ていつたのを見濟まし老人は急いで夫人の部屋へ這入りいつも寶石を藏つておく簞笥の抽斗をあけてみた、寶石は大部分簞笥ぐるみ無くなつてゐた、簞だけは有るが空虛なのもなかつた、手紙は果して虛構ではなかつた。

老人は更に跡に形跡を殘さぬやうに細かい注意を拂ひながら一々簞笥、机、衣裳戶棚、押入と寶石の藏つてありそうな處を順々に檢べてみた、しかし結局何處にも一つも見當らなかつた。そうなると思當つた事がある、先日[illegible]の夜會の時老人は夫人に[illegible]今日は寶石をつけない[illegible]てみた、夫人に[illegible]寶石が一顆も殘つてないばかりでなく鏡の寶石函さへ七つ八つは空虛になつてゐる、こりやどうもや棊まで知つてゐるんぢや、此奴めまで案內を一味になつてゐる、老人の勇氣はもう盡きた。

「二人で共謀して己の眼を眩ましてゐるんだな、二人共謀して―」老人はぼろ〳〵淚をこぼしながら思はず口へ出して叫んだ、そして堪らず啜び泣いた、老人が過ぐる二十年の間に築上げて萬代動きは無からうと思つてゐた幸福な家庭は一溜りもなく地に鎚れたあの昔は純潔な優しい心の娘であつた最愛の吾が妻、自分が手に入れた寶物の中で一番の掘出物と珍重してゐた大切な吾が妻、共白髮になるにつれて愈懷かしいものに思つてゐた吾が妻が自分の眼を眩ませて道ならぬ道に踏つてゐる、さりとは大きな子供すらあるのに老人はさう思ふと吾と吾身を嘲つた、藪突りの今になつて夫に不信を働くやうな妻だつたら鳥の濡羽時代にはどんな行をしてゐた事やら思ひ廻すと今の事が苦になるばかりでは無い、昔の事まで安心が出來なくなつた、今迄自分の心は一圓に妻の愛に注がれてゐた、今になつて妻の行に瑕があると分つては之からの幸福を何處に望もう、思案に餘つてゐる中に少し心が落着いた。

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ營ミ親切ニ取扱申候

京城 朝鮮銀行

振替貯金口座 京城三三三番
電話 (本局)三三一、一〇六、一二六〇、六一一、一二六一、二六一三

支店 東京、大阪、神戶、平壤、仁川、元山、大邱、釜山、鎭南浦、群山、木浦、[illegible]、奉天、大連、長春、[illegible]、哈爾賓、營口、安東、靑島、[illegible]、龍井村
出張所 [illegible]
其他內外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

十二月號 少年世界 讀物が面白い 日緖が新しい
怪光探檢實記 [illegible]
定價十三錢 郵稅一錢

少女世界
◇まぼろし影(懸賞小說)……山內秋生
◇クリスマスの前夜……岩崎史
◇お人形物語……西村花
□飛行機でパリーへ……今野あさ子
◇白鳩電話(滑稽小說)……細川武子
◇斯うすればよかつた(一、傘の失敗……二、お砂糖の壺……三、喧嘩のあと……)佐野部子 江口千代子
定價十三錢 郵稅一錢

東京本町 博文館

各編賜台覽

嫁入文庫 全部十二卷

婦人一生の相談相手 千金に優る嫁入道具

加藤男爵夫人著 定價一圓八十錢

第十編 女中使方の卷

女中は主婦の片腕にして、其訓練の如何は女子敎育に關係するのみならず、一家の幸不幸を領つ、著者多年の經驗より適切懇說せる本書を備へよ。

嫁入文庫
▼育兒の卷(加藤照麿博士著)……八版
▼裁縫の卷(喜多見高師敎授著)……七版
▼禮法の卷(田中歌子著)……五版
▼料理の卷(赤堀峯吉同菊子著)……五版
▼洗濯染色の卷(山下榮藏著)……四版
▼編物刺繡の卷(吉田相川共著)……四版

全部書目
▼化粧の卷(古宇田學士水島幸子著)四版
▼娛樂の卷(齋藤鹿山著)……四版
▼生花の卷(齋藤鹿山著)……四版
▼女中使方の卷(加藤常子著)……新刊
▼家政の卷(鳩山春子同薰子著)……未刊
▼婦人衞生の卷(相馬醫學博士)……未刊

內容見本無料進呈

全部十二卷 來月完了す 全部の御申込は今が絕好時期也。速に來れ!

嫁入文庫は四六判總布天金函入の美本にして定價各冊一圓、送料各冊八錢のところ、全部十二卷直接前金御注文に限り、全部を十圓に割引し、送料は一切弊社にて負擔す。內容見本は御申越次第直ちに進呈す。

東京市日本橋區檜物町十二番地 實業之日本社出版部 振替口座東京三三六番 發行

第六拾七回勸業債券豫約賣出し
豫約締切り本月廿八日限り 債券數限りあり賣り切れぬ內に
[illegible]
大正七年二月一日初回抽籤
◎新年の運だめし
京城若草町百六十番地 振替口座京城六五九番
月賦割初回金武圓也 申込書營業案內送る
報國公債株式會社朝鮮支部

大正七年 國民日記 定價五十錢(郵稅八錢)

日記界中の覇王として日記界の記錄を破れる我が國民日記は總ての點に於て日本國民生活の記錄として要求する所を具備し愈々本日より發賣す此の新案の完美と新版の威容とを見よ
而して大正六年の國民日記は尙多大の需要ありしに不拘品切れの好況を呈せし實例あり此の際後れて悔ゆる事勿れ

發賣所 東京 民友社
朝鮮發賣元 京城日報代理部 京城大平町一丁目 振替京城三〇〇番
取次販賣店 大阪屋號書店 巖松堂京城店 日韓書房 ウツボ屋書店 其他京城日報各地支局

京城七萬の愛活家に感謝す

全世界を背景とせる空前の大冒險 米人の東洋人觀 飽迄敵本主義の
◎潛航艇の秘密 全十五編三十卷

は十一月五日より十卷宛五日替にこれを公開し全十五日間雪の日も雨の日も風の日もレコードを破りたるは偏に愛活各位の賜と深く奉謝候

早川館主は十一月九日上京本社と打合せ近くヨリ以上『權威ある大寫眞』を公開し歲暮の微意を表せんとす

早川演藝部直營 電話二〇五番五九七番
有樂館

◎總統府會議開會

十七日の總統府會議は午前九時より午後一時に亘りたるが本會議開會の動機は十六日馮總統が徐世昌氏を招致し時局收拾に就き意見を徵したる際徐氏が現狀維持說を唱へ會議を開き協議しては如何と進言せるに基くものゝ如し（北京特電）

◎段總理留任條件

段總理は時局收拾の爲め進歩黨系の國務員放逐を條件とせる如きも實行さるゝや否や疑問なり（北京特電）

◎四川形勢緩和す

雲南來電＝四川に於ける形勢は段祺瑞氏の辭職以來頗る緩和し廣東、廣西軍の如きも戰意弛み妥協的色彩を帶ぶるに至れり（北京特電）

◎參議院廢止か

今次の政變の結果或は臨時參議院を廢し舊國會を召集するに至るやも知れずと豫期さる（北京特電）

◎墺國平和黨悲観

維納に行はれたる社會黨の平和示威運動の席上代表者エルレンボーゲンは斷言して曰く「吾人は塞爾維、羅馬尼を征服し露西亞を擊破し伊太利を退却せしめしも英佛兩國は鐵壁の如く屹立せり潜水艇戰は失敗に歸せるのみならず新たなる敵を造るの結果を齎せり」（ツーリツヒ電報）

◎土軍攻擊隊敗る

十五日附英國公報に曰く「英軍はジエルサレムの北西二十二哩のラムレーよりジヤツファ南方三哩の線に進しニユージーランド乘馬隊は銃槍突擊に依り土軍攻擊隊を擊攘し重大なる損害を與へたり十月三十一日以來英軍の獲たる捕虜九千名を超ゆ」と（倫敦電報）

◎物價騰貴と地方經濟狀況（十三）

京城商業會議所調査

▽咸鏡北道地方

時局の影響又は米價の昂騰に伴ひ諸物價の騰貴を見當地方に及ぼせる影響の内農家經濟として一般農家は固より米食するもの極めて稀にして殊に地主自作農に在りては主として自家蓄積の粟稗等を常食とするを以つて米價の暴騰に際して何等の影響を受けざるのみならず却て幾分の餘穀を販賣して大に利潤を取得するものありしも小作農に至りては米價の昂騰に伴ひ粟の暴騰を見たるが爲め多少の困難を感ぜり。而かも粟の需要俄かに增加したる結果間島粟は空前の出廻盛況を呈し本年一月より同五月まで間島粟の本道に輸入せられたるもの實に六萬七千九百七圓に達し前年同期に於ける三萬四千一圓に比し約二倍に上り隨つて地方の商況稍活氣を呈したり。土木建築其他職工の賃金は米價と共に騰貴の附近に於ては著しく勞働賃金の割增を爲し一人約十錢を値上せる爲企業經濟に及ぼす影響大なりと謂はざるべからず、間島粟の輸入增加に伴ひて多少此方面に對する資金の需要を喚起せしが一般輸移入品の暴騰に因り貿易商は何れも仕入手控の姿なりき市場に於ても諸雜貨類の賣行捗々しからず商況沈靜にして間島方面に對する輸出品も甚だ活氣なく金融緩漫の情勢を保てりと（完）

備考　以上は總て九月中調査に係るものなり

◎廢帝擁立至難　西比利亞獨立說

を回復し得たるに非ざるが故に更に何時勢力を失墜するに至らずとも測り知り難き有樣にして其政狀近頃〔以下不鮮明〕

割出したる窮策として帝政の復興は素と革命の根本思想と相容れざれば愈々廢帝の擁立とも〔以下不鮮明〕

◎朝鮮產金減少

一月以降九月まで朝鮮銀行各店に於て買入れたる地金の數量は一千八百三十九貫其の金額五百九十二萬九千圓なるが之れを前年の二千三百八十貫金額九百三十九萬八千圓に比すれば量目に於て五百貫目金額に於て三百四十萬圓の大減少を示し居れり之れ初春の嚴寒と西鮮方面の黑鉛熱並に鑛石の[illegible]精煉所に賣却するものゝ漸增のためなるべしと

◎最近對露貿易

我が對露貿易が同國擾亂の爲に大打擊を受くべきは勿論なるが今一月以降九月迄の同貿易を見るに輸出は千二百廿六萬餘圓輸入は八十八萬餘圓（露領亞細亞を除く）にして前年同期に比し輸出は六百萬圓を減じたるも大正四年同期に比すれば尙ほ四百萬圓を增し輸入は前年より七百萬餘圓を前々年より七百七八萬餘圓を增加せり增加の主なるものは特殊品なりと

◎鬱陵島捕鮑狀況

鬱陵島にては從來一般の公共資金として公共事業に對し使用し來れる同島漁民の共有たる鮑採捕漁權の賃貸料額に對する入札を客月同島漁業組合に於て擧行したるに千四百九十一圓を以て奧村平太郎江島新議兩名に落札したるが昨年度に於ける落札額は八百圓なりしも昨年鮑採捕の多かりしと且鮑を罐詰として移出せし爲め意外の利益を擧げ得たるより本年賃貸料の高騰を見るに至れる者にして同島に於ける鮑採捕事業益々好況を呈し共に公共資金の潤澤を來し一般島民は何れも喜び居れりと

◎聖駕還幸　玉體益御健かに　文武百官の奉迎

天皇陛下には十八日午後五時湖國の大演習御統裁より御車を還させ給ひ東京驛御著　宮城に還幸あらせらる是より先驛には各宮殿下を始め奉り文武の高官步廊に整列して待ち奉る程に鳳輦靜かに著し　陛下には中村鐵道院副總裁の御先導にて御降車各員に御會釋を給ひつゝ玉歩を運ばせらる仰ぎ奉るに伊吹颪吹き荒む湖國の野を風雨の間に立たせ給ひて親しく軍務を㩻せ給へるに玉體益々御健かにて颯爽たる英姿を拜しまつるぞ畏し斯くて　陛下には驛前御待受の御馬車に召され松方內府、波多野宮相以下供奉員を從へさせ儀仗の諸兵堵列の裡に御順路宮城に入らせ給ひぬ（東京特電）

◎製陶事業將來

朝鮮の窯業は今猶未開の儘なるも到る處優良なる陶土多く中にも慶尙南道の固城、河東、咸鏡北道の生氣嶺三地の陶土は純白無比にして土質緻密蘊藏の觀あり現時日本陶器の原料たる瀨戸の陶土既に缺乏に瀕し僅に新潟出石方面より補足せる事とて松風嘉定氏は夙に鮮土を用ひ牧島に新設中なる同氏の朝鮮陶器亦固城土に依つて硬質陶器を造らんとし敦賀に於て同樣工事中なる敦賀製陶にても技師中安禮藏氏等の實査により生氣嶺の陶土を採りて硬質陶器及び化學用磁器を製出せんとせる等需要頗に多きを加へて日本海橫斷の新航路を利用する陶土移出を今後益々增加すべき模樣なるが就中河東土は坩堝の原料にも優りて高熱强酸に耐ふべき化學用磁器に最もよく適し從來獨逸ゲーニツヒの輸入を仰ぎし同磁器の代用品以上の物を製造し得べしと

◎湖南線工事近況

十月中の湖南線工事狀況を聞くに金提四街里線改築工事は土工々事六分五厘通橋梁工事六分總體を通じて五分九厘通成工せり[illegible]大田間線路改築工事は土工々事九分通橋梁工事二分通總體を通じて二分通成工大田停車場本屋其他改築工事二分通成工せりと

◎慶北製筵成績

慶尙北道に於ける本年度調製用筵製作成績を聞くに從來使用し來れるもの猫垣九十八萬九千七百十七枚內地筵三十二萬八千五百枚にして九月末迄に製造せるもの猫垣二十四萬七千九百六十八枚內地筵二十一萬二千五百九十九枚合計猫筵百二十三萬七千六百七十八枚內叺筵五十四萬千百四十九枚の多數に上り一戶平均猫垣三十九枚內地筵十七枚に當れり（大邱）

◎出稼鮮人歸る

結氷期に向ひしより例年の如く露領浦鹽地方出稼朝鮮人の歸還者昨今盛んなるが十月中淸津上陸の歸還者は四百十一名にして其所持金は日貨に換算して三萬三千九百二十四圓最高所持者二千七十圓一人平均約八十圓なり而して此等出稼者の露領在留年間は一年乃至二三年の者大部分を占めをれるが中には二十八年の久しきに亙るものもあり又其職業別は勞働最も多く亞で農、商、漁等なるが中には親戚知人等に面會に赴きしものも少からず尙本年は露貨暴落の爲め鮮人出稼者は例年程懷工合良からずと

□支那布教一策　圓覺寺管長　釋宗演師談

去る九月初旬、朝鮮に來り釜山、京城、平壤等各地を巡錫し、夫れより支那に入りて滿洲より南北支那の宗教を視察したる鎌倉圓覺寺管長釋宗演老師は本月十六日午前八時郵船筑後丸にて上海より門司著、十七日鐵路東上したるが、老師の談に曰く

九月九日下關を出發して釜山に渡り朝鮮より滿洲を經て北京に入り十日間滯在する中に、萬里の長城も見物した、夫れより天津に出て青島、徐州から洛陽を訪ひ、再び鄭州に出で漢口、長江、鎭州、蘇州より上海、杭州に到り、上海に引返して同地より乘船歸朝の途に就いたが

▲行程七十日　に上つた、支那では、津浦鐵道沿線曲阜の大（成殿）、開封少林寺を觀て、要路の名士幾多の名僧等に面會した、朝鮮の佛教は、總督始政以來、稍秩序も立つたが、支那の宗教は、滿朝覆滅以來、甚だ衰微一層甚だしく、唯米佛天主教は、物質の援護に依りて勢力の扶植に努めて居るが、眞の信仰者を得たのでは無い樣だ、一言を以て盡さば、支那人に對しては、如何に宗義を說くとも何等の効力はない、宗教を說くと同時に物質的利益を以て誘ふの外は無いと思つた

▲其の要諦を　得たる米佛の天主教宣教師は、今より五六十年前より、支那全土の各主要地に教會堂を建設し、學校や慈善病院などを設備して、宗教以外、或る味に於ける物質的施與に依りて勢力の扶植に努めたる結果、現在支那に於ける信仰者は、各種宗教の歸依者の約七分を占めてゐる、斯の如く、外國の宗教家は、數年前より支那に着眼し、手段、方便も適當に用ひて、今では大なる勢力を有つてゐる、旅順では肅王に面會して、曉發會に招待され、親王は教上の意見を交換したが、親王は王者の德を備へた人で且つ頗る抱負も有して居らるゝが、宗教の問題に就ては、要領を得なかつた

▲日本に信賴し　相當の瀉總統、段總理とも面會した、何れも如才無き應接振りには感服の外無きも、宗教に關しては、何等の了會も無い樣であつた、總體孔孟の教も、宗教的意義を有するものであるのに、支那人が之を單純なる文學と心得てゐる事は根本から誤つてゐる、殊に支那では、歷代暴政に苦しめらるゝので、天主教を信仰すれば、外人の庇護を受けて、政府の壓迫を幾らかは免かるゝことも出來るし、日々の生活にも何等かの

▲恩惠がある　といふので信仰を裝ふものが大部分を占めてゐる、故に支那に於ける宗教普及は、物質的或る手段を用ゐるの外は無いらしい、佛教では、北支那は喇嘛教多く、南支では禪宗に近いものが多いが、總べて淸朝時代には、寺院は朝廷の祿を食むで居たもので、日本の如き俗人との交渉がなかつた、僧侶は、一切世俗と隔絕して、悠々閑々、無心に經文を唱へてゐた、其頹廢も無理からぬことである（門司）

◎戶別割督促數

大正六年度第三期學校組合戶別割は其の納期限も既に經過したれば京城府稅務係にては之が督促狀七千三百九十一通を未納者に向け發送せり而して之を前年同期に對比する時は督促狀一千餘通の增加を見たるも之れ今期に於ける督促狀の發付期が前期若くは前年同期に比して著しく早かりし結果に基因せるものゝ如し即本年第二期に於ては納期限經過後約一ヶ月を經て督促狀を發送し又前年第三期に於ては一ヶ月二十七日間を經過して發送し更に大正四年度第三期に於ては納期後三ケ月にして始めて督促狀の發送を見たり然るに今回に在りては僅々十五日間を經て之が發送を爲したるなりと尙當局にては事務の整理と共に漸次督促發付の期日を速かならしめ遲くも十五日以內に之が發付を爲すべき方針を採り居れり

◎鹽澤大佐招宴

鹽澤警務部長は隊署長會議を機會として十八日午後六時より明月館に於て盛大なる招宴を張りたるが內地人側よりは松永道長官、鄕讀檢事長、岡本第十九師團參謀長、前田高等警察課長、其他京畿道、警務總監部の各課長並に新聞雜誌の代表者、朝鮮人側よりは趙重應子爵、趙商業銀行長、韓漢城銀行專務等列席せり席定まるや鹽澤警務部長の挨拶あり趙重應子爵は來賓を代表して答辭を述べ餘興として茶洞妓生の假裝舞踊、新彰兩妓生の歌舞等あり頗る盛會なりき

◎釜山水道斷水

釜山水道貯水池は近來の雨少き爲め甚しく水量減少したる爲め去る十五日以來每日午後三時迄斷水することゝなし[illegible]より實行せりと

◎鎭南浦短信

▲製革開始　府內碑石里に工場を建設したる朝鮮製革所の原動機据付は未濟なるも手工を以て既に鞣製を開始し來月十日頃第一回製品を出すべく技術者の談によれば原料小皮の如き品質頗る優良製品の好評を博すべきは疑無かるべしと

▲補助貨散布　永らく缺乏を訴へたる補助貨は小紙幣の發行と共に其流通を見私鑄貨も吐出されたるが未だ以て十分と云ふ可らざれば鮮銀に於ては今後每月三千圓宛散布すべしと云へば最早其缺を喞つ事なかるべし

▲稅關長回差　永らく入院加療中なりし野手稅關長は病勢快方に向ひ日々出勤中なるが茲一箇月も經過せば舊態に復すべしと

人事消息

▲平野房太郎氏（多木肥料會社支配人）　十八日來京日本旅館へ

▲篠田治策氏　[illegible]　同上

▲英人ウヰツト氏　[illegible]　同上

▲藤田辰氏（工學士）　同上

▲[illegible]（東京[illegible]）　同

▲林正次氏　朝鮮ホテル滯在中の處十八日夜仁川へ出發

▲[illegible]（辯護士）　入京滯在中

□正誤　[illegible]

百聞百種

アレキセーフ將軍が戰線に於て日本出兵を論じ其報償として烏蘇里州を割讓しても宜しいと云ふた事は露國民の大歡迎となり露國新聞紙は頻りに烏蘇里の効能を並べて居る▲夫れに依ると烏蘇里は烏蘇里、松花江兩河を包有し北は日本海に出でゝ朝鮮支那に接壤し全面積廿萬一千四百四十平方露里露領西比利亞中最も豐饒の地である▲烏蘇里河沿岸一帶の地は沃野千里下流に入りては森林を以て蔽はれたる湖沼多く航行に便利である▲森林は菩提樹、樫、樅、白楊、[illegible]、松等あり▲東部山嶺には主として針葉樹多く▲動物には虎、豹、野猫、熊、野犬、黑貂、西比利貂、猯、黃鼠（貂の一種）麝香鹿等多く鳥類には雉、鷄、雁、鴨等多く河川には鯉、鱒等無盡藏に產する▲鑛產物としては金、銀、鉛、鐵、大理石等多きも設備不充分の爲め未だ多く世に知られざるが其れ丈け將來有望とす可く▲農產物は小麥、燕麥、ライ麥、蕎麥、大豆、玉蜀黍、豌豆、麻等を產し牧畜は未だ發達せざるも所在牧草に富んで居るから是亦將來有望の一事に算することが出來やう▲サア斯んなに結構な土地を差上げるが如何……と出しては見れても恐縮せざるを得ない▲古谷久綱氏が滿洲の鞍山站鐵鑛を視察した時▲此邊は昔時鐵石山と云つて居たがツイした事から調査すると此の大鐵鑛を發見した▲名は鐵の[illegible]で迂濶り聞き流しては不可ぬと案內の技師君から聞くと▲古谷君曰く『では旅順の老鐵山なども掘つて見ると鐵が出るかも知れませぬね』▲と見事一と洒落な飛ばすと技師君擽らす▲『老鐵山の鐵は黃金山があるから黃金が出ますね』と聯いられて古谷君苦笑一番『……ナール程』ね▲鞍山站と云へば[illegible]が何處迄行つても鞍山站が北に當るので困つた▲一同が是れぢやチトおかしいと思つたがナール程ね▲とは某少佐の談

□信水將軍來信

堀內信水將軍、大演習陪觀の爲め湖國に在り葉信に曰く

大演習地・飛行機雁行の下、有佛有鬼、有山有水の處、觀老兒之健康

飛行機の鷲をおすむる懸かな　信水

◎奉天と大材

〔冒頭不鮮明〕水害の爲め商取引きに一大打擊を蒙り容易に恢復するに至らざるに白河增水により下流なる太沽バーは漸々水深を失ひ過日の如きは僅か[illegible]の天潮丸は十四日夜の大潮に乘じ無事通過し天津へ到著したりと

[illegible]入港せり次ぎに濟通丸は坐洲せしも乘客を上陸せしめたる等昨今の減水は近年見ざる處なり勿論小潮なりしと北風激烈なりしを以て[illegible]

[illegible]外なり又之が輸入に際して支那稅捐局は價格百元に對し銀八元の割にて稅捐を徵收し居れり即ち一筏[illegible]

白松七十一萬方寸、紅松十一萬六[illegible]方寸、丸材四萬一千本、丸太五萬四千八百本　以上の如くなるが之が昨今の相場は[illegible]角五分、同同同三角五分而して木廠子市場より奉天城內迄の運搬費は價格一元のものに對し約一分を要する由

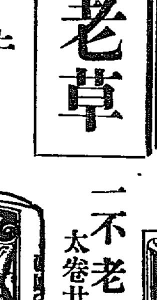
新定價表

新定價品には品質の向上と共に
內容本數を增したる物も有之候

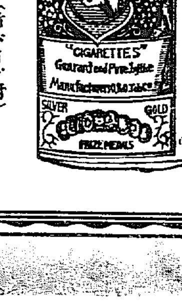
一ユニコール　太卷十二本入　定價金四錢

一ロンドン（竹パイプ付）中卷二十本入　定價金參錢

一不老草（竹パイプ付）太卷廿本入定價金四錢



一白牛　太卷二十本入定價金四錢



一太鼓票（竹パイプ付）太卷十五本入定　價金參錢

朝鮮京城　西大門町壹丁目

東西煙草商會

電話長一五二九番　電信略號ト
振替貯金口座京城六一三番

◈煙草界値上斷行と　弊商會製品の大改良

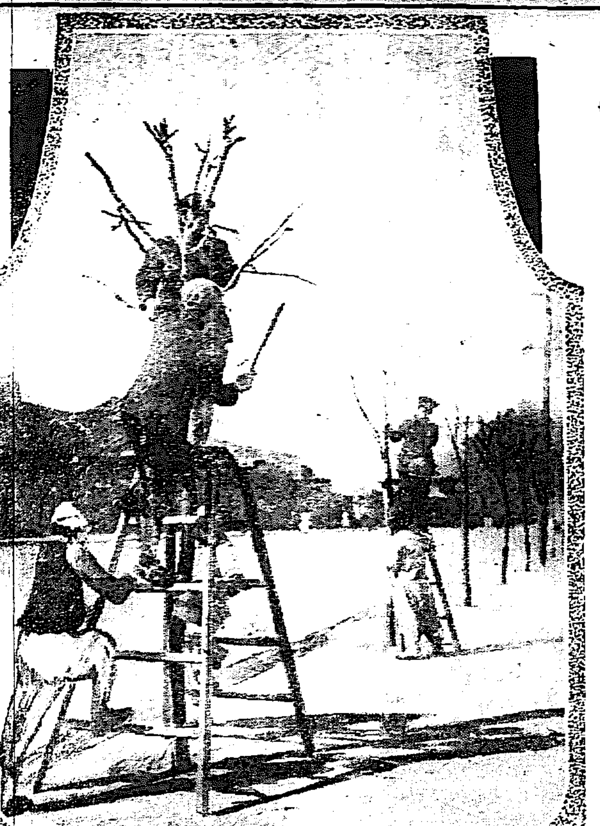
今回全鮮煙草製造業者間の協定に依り十一月十五日より一般値上を實行すること、相成候然るに同業中には値上前引取の賣殘品を殊更に處分せむとして盛に廣告紙を散布し販賣に努めつゝある向も有之候へ共弊商會に於ては舊定價の普通品は愛煙家各位の御眷顧の結果全部賣り盡し特に弊商會は同業者の協定を尊重し値上斷行と同時に愛煙家各位の御利益を計り斷然品質に一大改良を加へ從來の品と全く別質の實際價格以上の優良品を製造發賣致候弊商會は特に此の機會に於て年來の大方針たる需要者本位の主義を遺憾なく發輝致候間是非賣物一包を御試喫の上他品と嚴密なる御比較如何に品質の大改良をなせしかを御了知の上倍舊の御愛顧を以て御買求の榮を賜り度此段謹告旁々御願申上候也

◉北支那航路難

北支那唯一の貿易市場たる天津は……の如きは八日朝より十二日迄五日間坐洲し漸く離洲して牛莊に向ひ十六日來港の筈なりし大阪商船の福州も同樣の苦航をなし十四日大連出帆天津へ向ひたる大連汽船……れば吸込み頗る薄弱にて從つて浚渫も豫定の竣工を見る能はず自然大船の出入困難となるべく十三日……紅松一百徑、丸材及び丸太四百徑……達し其の主なるものは白松三百徑……なる德泉湧、亨通湧、廣吉慶、福生德、德慶元等の現在扇品の主な……に於ける材木商の大手筋……

紅松同同五分、同同圍入手同二……元一角、丸材長一丈三尺圍五寸洋一元六角、丸太二本に付き同六角●分、丸太二本に付き同四

……現下の政狀に鑑みればケ氏辛くべ……原を占有したりと云へど未だ蓄勢……中に於て其計畫を有するものあり……產階級若くは舊貴族其他有志階級……するもの無しとせざるべし……實現は至難なるべし



♣冬構へ ＝太平通りの街路樹手入れ＝

◉繪に見る蒙古探險

征虎隊馬首を連ねて高原へ

こは虎窟に＝綠門を切て＝歡迎＝其頭上を三羽の鶴が＝明日は獲れるぞ＝蒙僞原も馬背に＝御大將は高原で分れる＝飛出した第二頭

北鮮虎狩團は十五日夜元山大東愛巴の各旅館に分宿して十六日午前八時元山發高原さして進發したるであつたが此時遙の西の空から……前夜一行は山岡萬朝子の作に係る征虎の歌田村中央子の作虎來い節など勇壯淋漓の軍歌を放歌して大いに士氣を鼓舞せし丈けに勇心勃々として元山の夢は既に

▲高原の虎窟 に馳せ北靑の山野に躍つて寢ても眠られざる程に愈々北鮮虎狩の序幕切つて落さる可き十六日の朝を迎へた、空は……を設へて一行を歡待する事頗る懇め……に驛前に綠門を建て歡迎……

▲三羽の鶴が 舞ひ來るよと見るまに停車場附近の空低く悠々と圓を描いて深碧の空に消え去つたが此れを見た一行は何れも吉兆なりと呼ばり群集は歡呼の聲を張り上げて征虎軍萬歲を叫んだ土地の古老は鶴が九天に翺翔する場合は必ず瑞徴があると言へば

▲御大山本氏 は『明日は必ず虎が捕れるぞ』と大滿足十時半驛前に於て武裝した一行は朝鮮馬三十數頭に打乘つて昨夜の宿驛地なる水洞面彌電里に向け出發した、防寒具に身を固め肩には銃を擔ひ手には刀を提げた一行の騎馬姿が山岳重疊たる……の山麓や秋馬上德の谿谷傳ひに蜿蜒數丁の長列を作て通過する狀は宛に見る

▲蒙古探險隊 のそれの如く物々しくも厳めしいものであつたが一行中には馬背から跳落されたものあり馬が進つて奔馳すれば程馭し兼ねて徐々進走させた者あり、馬蹄の急坂で馬背から宙返りして危く斷崖絶壁に墜落を免れた者などがあつて、流石に虎を擒りにすると壯語した豪傑原も手綱一筋の

▲馬背に飜弄 されて顏色全く土の如くであつた途中長興里に於て晝食を喫した後高原虎狩隊の主將本田貞信、八は山本唯三郎氏外數名と共に本隊と別れて……に別行動を取り本隊は再び出發の準備を整へて今や將に發足せんとする時馬岡面の小松林から俄然

▲二頭の大獐 が現はれて……と驚ぐ銃に驚いて電の如く山を目に走り左に驅り一行があれよ〳〵と……逃場に窮したる者の如く……

▲遠來の客に ……

●東宮殿下

海相等へ賜餐

東宮殿下には十七日第一艦隊附の御資格にて横濱港外に扶桑、山城の兩艦御見學相成りたるが十八日加藤海相島村軍令部長吉松第一艦隊司令長官以下を芝離宮に召され御慰勞の午餐を賜はりたり（東京特電）

▲假寢の夢は 如何に、空は名殘なく晴れて纖翳だに無けれども流石に凍天の霜は落葉を染めて寒氣が漸々と膚に迫つて來る。行深き山里の……寒に襲ふ三千城梁の行軍如何になど、考へたら、寒氣と悲壯とで身內がワク〳〵して思はず武者振ひが出來相であつた、汽車が二時の終高原驛に到着すれば土地の有志は虎狩の首途を祝せんが爲

▲初陣の血祭に

豹を撃止む

（高原里にて特派員早川生）

永興組の手柄

征虎軍は十八日午前十時高原狩獵を發し午後四時高原驛着同六時永興に向ひ同地學校に於ける歡迎會に臨む、十七日午前四時永興郡……面に於て永興軍は豹一頭を獲た目下狩立中なり（高原にて早川特派員發電）

◉怨みの放火

全南和順郡同福面蓮月洞鄭……妻徐相玉（三五）妾朱姓女（三五）と共に同棲中朱姓女と本妻和玉を嘗め上る爲め同人は耐へ兼ね和玉は本月六日朝口論の末家出したるが如く……

◉役員共謀して學稧資金費消

釜山府水晶洞にては古來より學稧を組織し洞內子弟の教育資金に宛て來りしも其學稧資金は殆んど費消し盡せるより大正三年五月に同洞有志者發起人となり新たに各自醵金出資の

▲學稧を組織 したるに金鎭斗外四十四名の醵出を得て……役員の選擧を行ひしに稧長に……監督に金鎭斗……

◉岩本判事嚴父葬儀

十六日逝去したる高等法院部長判事岩本貞明氏嚴父時四郎氏の葬儀は十八日午後四時岩本氏官邸後庭に於て神式を以て莊嚴に執行されたり會葬者は渡邊高等法院長中村覆審法院檢事長等を始め親近知己數百名に達し盛儀を極めたり

◉釜山の火事

十七日午前五時四十分頃釜山土城町一丁目火災あり鮮人家屋八戶三棟を燒失して六時二十分頃鎭火せり損害約三百圓位ならんと

悲しき別世界

濟生院養育部 ―孤兒訪問參觀記―（五）

……いて見ると、名はケーといひ年は十五……十二歲の時に父に死に別れ、……を食つて叔父の家に厄介になつてゐたがそれも事情が許さないので仕方なく本部に收容された。そして部內の學校まで卒業して揚州の……に往つてゐたが氣に觸つて歸つて來たといふ……

▣日本人の 子供が一人……

▲珍重すべき

支那書畫（二）

松村六六氏談

○○○京城に珍品の愛藏家が多い○○○

余は京城に於いて支那書畫を收藏して居る名家を歷訪して多くの名品逸物を鑑賞したが中にも鑑識が高く收藏品の

▽◆豐富で あつたのは鮎貝槐園氏であらうと思ふ同氏は……の山水の長卷、鐵麓石の……、王圓照の水墨の山水、朱鶴年の……を秘藏して居るが其他にも諸名家の題跋のある朱竹垞の小修、清朝初期の名家の題十四首ある王霖の李太白讃居の圖等は

▽◆貴重な 者であると思ふ……

……つた、工藤文哉先生は……收藏して居て……書の鑑定も九分であるし書を能くする事も亦世間で定評がある杉山孝平氏には……等がある最も……珍らしかつたのは

▽◆鄭板橋 の小品十二枚であつた、人も知る如く鄭板橋は……に於ける書道の大家として……杉山氏所藏の小品十二枚は眞物であるのは言ふ迄も無く……鑑定上參考になるものである、近頃頗る

▽◆熱心に 聚集して居るのは山口貞昌氏で近く手に入れたのは金冬心の……小品は張之洞、吳大徵外二三名家の題詩ある名品で劉石庵の大幅、梁山舟の……なども亦結構な者であつた此上數氏の外にも京城には支那書畫の

▽◆愛藏家 が多い……を聞き及んで居たが何れも……遍く拝見の機を得ないのを遺憾とするが多くの人は……いかさま物を摑ませられて得々としたり所謂……の

▽◆滑稽を 演じて居るので專門家の眼から見ると隨分冷々させらるる目も多い、……書畫は時代の宜しきを得さへすれば其時代相應の色を有つて居る者である遠くに

▽◆眞味は あるのだから愛好家たる者大に注意して……肉眼で鑑賞出來ぬ樣な者に……したり、自分天狗になつて了つて……の愚を學んだりせぬ樣具々も注意せねばならぬと思ふ（終）

古鐵商 鐵條網針金 京城北米倉町 有好金物店 電話一五四六番

御名刺印刷 コロタイプ石版活版美術印刷廉價 中田普成社 電話二一〇五番

印刷インキ製造 櫻井商店

貸 田村質店

京日案內

銃砲火藥獵具 瀧川銃砲店

簿記實踐教授 簿記專修學院

讓店

○はねつき

明治町 柔術道場

恩給年金即時 山口屋

雜木原木板類 京城黃金町 本明雜木店

◯ミツワ家庭藥

處方を公開し責任を明かにせる

一、處方を公開し內容を明示す
二、處方的確にして奏効顯著なり
三、性質劇烈ならず中毒作用の危險更に無し。
四、藥品純良にして效力一定不變なり
五、製劑精確にして變質の憂なし
六、容器完全にして風化潮解する事なし。
七、包裝嚴重にして携帶至便なり
八、內用藥は總て錠劑なれは服用容易也。
九、日常起り易き病に對し汎く應用せらる。
一〇、價格低廉にして永く保存に耐ふ。

ミツワ家庭藥の効用と定價

東京日本橋區橘町 丸見屋商店

櫻御殿

第七十一回　大阪　霞の家主人

安藝の月（十一）

淸之丞は樂しからぬ日を送つた、一日も早く三左衛門の後を追つて武士の道が盡したかつた

その中に年が暮れて、明けると慶長六年となる、家康の手が八方へ延びて、それと反對に秀頼の勢力が減つて行く、小山評定の席上で『秀頼公に疎略は致さぬ』と誓ひながら、兎もすると、冷たい息を吹きかける、京都に居る敵所などは取り分けて甚しさお惶つて行く、これを見るにつけ早くに〔つ〕け、三左衛門の最後の狀を想ふにつけ、花も、月も、面白う見た事はなかつた

『初瀬は大である、乃公はこの大に戀をして居た、今もまだ徳川家の間諜になつて、見聞きする事柄りなく江戸表へ内通するであらうか、關ケ原の一戰は、全く侍從樣がお味方を爲されたゆゑ御勝利を得させられた、敵兵の群る中を、小山から桃山へ使して、金吾中納言樣へ侍從樣の思召を傳へた、彼だけの御奉公でも、どれだけ御勝利の土臺が成きて居るかも知れぬ侍從樣は、それまでにして江戸內府樣へお志を運ばせたまふに、江戸內府樣はまだ御疑念をもちたまふ、忠義の運び甲斐も無いお方ぢや』と思ふて、猶さら初瀬が憎くなる

それで道齋を經て送る玉章は封も切らず捨てゝ了ふ、初瀬はさうとも知らず道齋に返事を迫る

『道齋樣、御返事はどうでござんす、淸洲に在らせられた頃は、この樣でもなかつたが、近頃は冷淡くならせられた、お前、わしの事を惡しざまに云ふのでないか』

『これは迷惑、褒めこそ致せ、惡口など致したことはござらぬ』

『それなら、何故御返事を貰ふてたもらぬ、日外もち托けた文ばかりでも、五六通はござんすぞへ』

『それも承知、隨分御催促は申し上げますが、淸之丞殿もお忙しう在らせられます、何が大御前は、善いにつけ、惡いにつけ、淸之丞殿で無いと夜も日も明けぬのでござるからな』

『其處を味好う頼みます、一度でも御返事を聞いて來てたもつたらきつとお禮を致します』

一寸の隙を見ては、驅け寄つて斯う囁く、その心中を推量すると憐れにもあり、いぢらしうもあるので、今日こそはと思つて、淸之丞の邸を訪ねた

淸之丞は廣島へ來てから加增になつて、新地八百石を貰つて居る、年齡は二十六、母の銀杏に大切に傅いて、まだ妻を迎へようとせぬ、銀杏や、親類の誰彼が『もう家內を取つては何うぢや』と再々勸告してくれるが、彼は耳も藉さない

『妻などは入りませぬ、世嗣が入つたら、親類から迎へます』

返答は斯うであつた

今日は久し振の非番で、刀の手入をして居ると、助左衛門が尋ねて來た、助左衛門も恰ど非番で徒然にして居るので、小供を伴れて遊びに來たといふのであつた

小供は釆女の事である

『これは／＼、よくお來でなされた、手前も非番で困つて居る、まあ、お上りなさい、釆女も大きくなつたのう』

助左衛門は座へ通つて、淸之丞お秘藏の刀を見などする、その中に三左衛門の話が始まつた

『三左衛門の切腹ほど見事な切腹を見たことがない、お手前とは稀な覺悟のようであつた、さらかして見せて進ぜたかつた』

『只一目名殘が惜しみたかつた、早く知らせても死ぬるてとかむざ／＼と腹切つたけ、さぞ殘念であつたらうの』

『なにさ／＼、一萬五千石の大身お有手、殘念なことがござらうか、有る樣ましう思つた程ぢや』

話は段々進んで行く、釆女にとつて聞いて居た

牛乳 御用 京城東四軒町 岡野牧場 電話一〇六九番

日報俳壇

秋季雜詠（二）　川味

枝に折る黏き雜木や鵙の聲　同
鵙鳴くや敷の中なる一軒家　同
家に馳みて網の見ゆる鳴子哉　同
秋出水堪へ住む土手の小家哉　同
刈田中に灯す祭の行燈哉　汀
裏山の畑に鳴落つる枯木哉　同
鵙鳴くや兒が通ふなる裏の門　同
明月の港に集ふ小舟かな　同
蕎頭を啄む數のヒヨコかな　同
杉の穗並に谷の霧飛ぶ丘哉　琦
地に道せて桔梗の咲ける山路哉　同
入日漂ふ原一面の桔梗かな　同
刈られある秋草や蓼紅に　同
丘なだらかに墓並べる桔梗哉　同
秋草に雪の落ち行く廣野哉　楚
一村は鰯に暮れて炎火かな　同
鰯曳く裸選しき朝日哉　同
洲の芦に潮落ち殘る蜻蛉哉　同
木戸押せば鈴虫ゐるを嘆きみる　北

[illegible]

［北青白楊會］

[illegible]

隱逸せる人の詩商し菊の花　格堂
銀杏を葉踏んで石段登らん　鄕坡
町川の漁舟ぶ蜻蛉かな　梓石
地を浴びて竿に動くお蜻蛉哉　羅魚
町中に蜻蛉高き眞蒼哉　甘霞

忘機吟社例會於上畑街

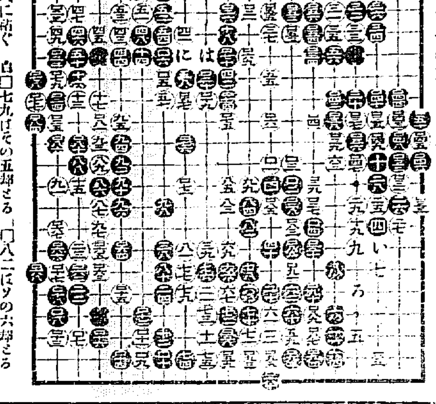
十一月十一日。吟社同人。會於塔洞公園內青木堂。從恒例也。先是。木下半狂。以事自城津到。松田學鷗。自鏡城來。先後而歸。會者僅十有三人。不爲甚多也。[illegible]

[illegible]

圍碁手合（七）

三段　山平壽氏
二子　來見治一氏

白ダ七の二百八十一より白の十八十六（百九十五手）迄白中押勝



講評

白□五一は三の八に備ぐ、白□七九はその五押さる□八二はツの六黑四八い印ニ夾ム、ベシ白六八ろ印ニ尖ム方善シ、黑十惡シ□五八ニ夾ミ白二十ノ時六七ニ飛ブベシ十六ノ尖付ハ打タズニ十八ニ打ツベシ白二五小ナリ黑三八ハ四五ニ飛ブベシ黑四二ハ印ニ打ツ事最モ肝要ニシテ普通厳々出來ル形ナリ、本局ハ細碁ニ殺ルベカラシモ黑□八六ノ見損ジニテ大石ヲ死ニ至ラシメタルハ惜ムベシ

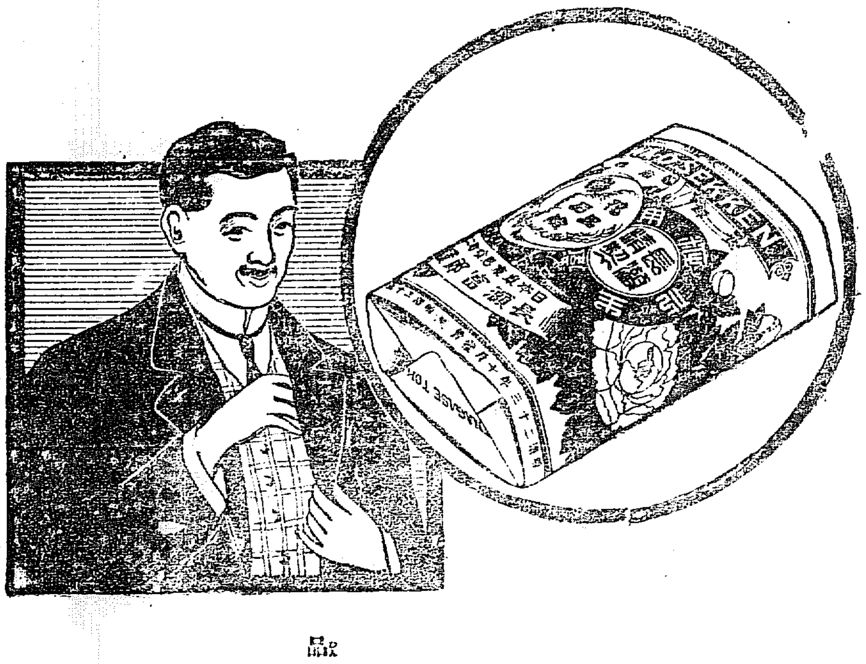
●慶北檢米狀況

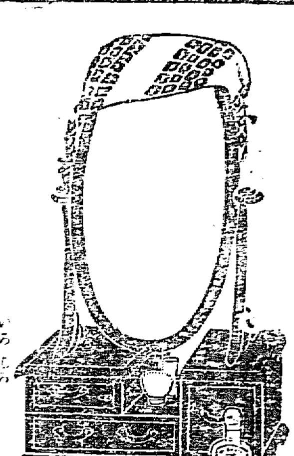
慶尙北道に於ける十月中米穀檢查狀況を聞くに玄米の部にて總檢查數一萬五千五百七十八叺內一等[illegible]等一一八叺三等五四五叺倭縮三千九百四十四叺にして二等五四六叺三等三、一九二叺不合格二〇六叺大邱二等三四叺釜山二千九百二十[illegible]格は金泉大粒十九圓三十錢小粒十九圓在來種十八圓龜尾大粒二十圓小粒十九圓八十錢在來種十五圓五[illegible]倭大粒廿圓七十錢小粒二十[illegible]二十圓九十錢在來種二十圓五十錢平均大粒二十圓三十八錢小粒二十圓四錢在來種十九圓三十三錢にして主なる仕向先は釜山の一萬九百叺[illegible]三等六萬千六百七十四叺不合格千五百五十一叺なるが之を各檢查所別にすれば金泉一萬千三百六十五叺にして一等八九叺二等四八四叺[illegible]叺三等三四六叺三等一八、一二八叺不合格一七九叺慶山五千五百五十七叺にして一等七七九叺三等四、七七八叺清道二千三百八十[illegible]十錢馬山九圓八十二錢にして平均十圓三十一錢にて主なる仕向先は大邱の一萬五千二百三十九叺尾の道の八千八百八十九叺下關の一萬[illegible]

マツチ（燐寸ほ）ハネシカ
ねの安い品質保證の最經濟的『マッチ』はハネシカに限る
羽鹿燐寸
京城本町
電話三五〇番
森久本店

もん病ばい毒

詐欺漢なり
京城南大門外
トラグ商會


日用石鹸の選擇は
最も經濟的に其の效用を全ふする石鹸を第一となければならぬ それには化學的純良の石鹸にして最も刺激なき芳香を有し最も廉價に需められる。
品質本位
花王石鹸が恰適とせらる！
花王石鹸香水製造元 東京代理店 東京馬喰町 長瀨商會
花王石鹸日本水香輸入元 西國代理店 大阪安土町 大崎組商會

ホンノリ色白くなる
レートフード
▽強い精分

毎日鏡を見る度に屹度美くしくなつてゐます
レートフードは非常に精分が強く、其上化學的の不思議な作用は毛孔迄も開いてお肌を整へ、どんな荒でも完全に留めて色艶をよくし、自然にホンノリ色を白く致しますから男女共隠化粧料として實に天下一品で厶います。
東京 平尾賛平商店